悠久同窓会会誌

悠　久

阿南高専悠久同窓会

2021・春
第53号
2021年2月20日発行

発　行　阿南工業高等専門学校
悠久同窓会事務局
〒774-0017　阿南市見能林町青木265
印　刷　(有)山田印刷所

令和2年10月15日　オゾン空気清浄機贈呈式

目　次

名誉会長ご挨拶
同窓会会長ご挨拶
学校だより
　阿南高専の学びをとめない・コロナ禍の学生の歩み 2020
　学寮（明正寮）便り・一般教養便り・機械コース便り
　電気コース便り・情報コース便り・建設コース便り
　化学コース便り・広報情報室より・専攻科より
会員だより
　近況短信　・　勝手に書きます！言いたい放題名作映画紹介（第6回）
　赤い手帖（30）・　たそがれびとの子守唄　・「With コロナ」の生活
悠久同窓会
　オゾン空気清浄機の寄贈について
現役クラブだより
〈体育部〉　テニス部・陸上競技部
〈文化部〉　吹奏楽部・茶道部・プログラミング同好会
支部だより
　東京支部
総会のお知らせ

ご挨拶

名誉会長
平山　けい

悠久同窓会会員の皆様には日頃本校へのご支援ご協力を賜り心より感謝申し上げます。

令和２年４月１日より阿南高専学校長を拝命致しております平山けいと申します。３年間の松江高専学校長勤務の後、本校への異動となりました。そのため、短い就任期間になるものと存じますが、地域企業・行政そして同窓会との繋がりを大切に、何よりも本校が学生に取ってワクワク出来る経験と学びの場となる様精一杯努めて参る所存です。どうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、高専は日本の高度成長を支えるべく設立され再来年で60周年を迎えます。同窓会の皆様方が学んでいた昭和・平成時代の高専と令和時代に入学してくる学生の資質や高専自体のおかれている目標・目的等は大きく異なって来ています。その中にあって、最先端の技術と知識を身につけ、社会の要請に応えるべく分野横断的に対応可能なエンジニアの育成に本校も取り組んで行く必要があります。また、世の中の流れが非常に速く、５年先が見通せない中にあっても、エンジニアを育成する高等教育機関として地域に対する大きな責務を果たして行かなければなりません。全国高専の中でも本校は特に教育力が高く、教育と学生への熱い思いを持った教職員が日々研鑽協力しながら学生指導に邁進しており、これが阿南高専の最大の武器であると考えています。

新型コロナウイルスへの対応で幕を開けた令和２年度です。令和２年４月６日に入学式を挙行し新入生を迎えた後、見通しの見えない新型コロナウイルス感染が広がる中で、学生と教職員そのご家族の命と安全を守ること、「学生の学びを止めない」ことを目標に感染症対策に力を入れ、最善の方法で学校運営をして参りました。本校は昨年４月下旬から遠隔授業を開始し、学生の学びを止めない努力と工夫を重ね、大きな寮を抱えながらも学生・教職員の努力と工夫により９月からは全校対面授業が可能となり本日まで休むことなく無事に学びを進める事が出来ております。感謝です。

また、日亜化学工業株式会社をはじめ同窓生が在籍されている地域企業の皆様方からコロナ禍で困窮する学生に対する温かいご支援のお申し出が数多くありました。この場を借りて感謝申し上げます。

この様なコロナ禍の中にあって、阿南高専テクノコミュニティ形成ビジョンのもと未来に向けて阿南高専と地域企業が「オープンイノベーション行動」を展開していくための創造技術ファクトリーが令和２年３月に無事竣工致しました。コロナ禍で遅れていた「創造技術ファクトリー」キックオフ見学会を令和２年12月23日に開催することが出来ました。表原阿南市長、横手同窓会会長、西野ACTフェローシップ会長を始め多くの同窓生の方々、ACT企業の方々にご参加いただくことが出来ましたこと、改めて感謝申し上げます。今後、この施設は学生の技術と知識を磨く場となることはもちろんの事、「地域の皆様との連携による地域貢献」の核となるファクトリーとなることを念頭に様々な企画を推進してまいります。ここを拠点とし、教職員・学生と共に同窓会・ACT会員企業の皆様はもとより地域の皆様方と共に地域課題や地域が求める社会実装に繋がる研究を推進するための場としての活用を推進します。同窓会の皆様方の本ファクトリーへの積極的な提案や連携によるご利用を心より期待しております。

さて、現状で継続している徳島県や徳島大学との多くの連携事業、内閣府事業、阿南高専リカレント教育・次世代光関連事業開発支援事業等は、今後も積極的に推進して参ります。その他、来年度は、文科省が推進する2040年に向けた高等教育機関の目指すべき姿に対応するため、デジタルを活用した高度化プランへの対応とDX化が進展する社会を牽引する人材育成に力を入れて参ります。また、高専は世界の「KOSEN」としてアジア各国の発展に寄与していく国際教育をタイ・ベトナム・モンゴルで展開しております。本校もその一翼を担い、来年度より９年間タイ国に設立された２つの日本型KOSENの連携協力校となることで相互に連携し、学生・教職員の国際力と高度化に更に磨きをかけグローバルな中でグローカルな地域貢献も果たして参ります。

一方で、本校組織としての課題もございます。研究力推進と高度化のためには、専攻科の高度化が必要不可欠です。そのためにも本科を卒業していく学生が大学編入の滑り止めとして専攻科を選択する現状を打破し、専攻科へ進学する魅力有る道筋を組織として整えることにも注力して行かなければなりません。また、全国高専の中でも唯一本校にだけに有るインキュベーションセンターを本校の貴重な財産として利用出来る体制を整えなければなりません。学生や教職員と高度化研究連携のための利用や学生起業に有効で効率的な運用などインキュベーション施設が本来有るべき姿への改革を阿南市と協力して行うことも必要です。

最後に、校長として教職員の先頭に立ち、本校の学生が将来備えるべき資質と活躍、地域貢献、社会実装に繋がる教育研究の推進と共に組織として確実にPDCAを廻す体制を整え、学生と共に教職員がワクワクする教育現場として教職員と共に知恵を結集し、工夫をしながら動く所存でございます。

阿南高専は同窓会の皆様のご期待・ご支援・ご協力を励みにしながら今後も教職員一同精一杯努力を続けて参ります。変わらぬご支援とご理解ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

ご挨拶

同窓会会長
横　手　久　典

新年あけましておめでとうございます。悠久同窓会会員の皆様方におかれましては、ますますご清栄のことと合わせましてお慶び申し上げます。また、平素より悠久同窓会および母校阿南高専に対し、ご支援ご協力いただいておりますことに深く御礼申し上げます。

さて、一昨年前に中国・武漢から発症したとされる新型コロナウイルスの感染によるパンデミックは、文字通り全世界を巻き込み脅威を振るい続けています。昨年は、この未知の感染症に振り回され、2020東京オリンピック・パラリンピックも延期に追い込まれ、ありとあらゆる経済活動に多大な影響を及ぼしたことは皆様のご承知のとおりであります。

悠久同窓会も本部のみならず、関東・関西・徳島各支部も総会および各種イベントを中止にせざるを得ず、不完全燃焼の一年でありました。また、学校も寺沢前校長にとりましては最後の卒業証書授与式を通年のような形で挙行することができずに阿南高専を後にされ、松江高専から赴任された平山校長も入学式どころか休校を余儀なくされ、コロナ対策に翻弄されながら対面での授業が再開される10月まで大変なご苦労をされましたこと、まことに心中お察しするところであります。対面授業の再開に平山校長をはじめ阿南高専全教員、そして事務および全スタッフのご努力に同窓会として深謝申し上げ敬意を表するところであります。

悠久同窓会も活動できず使うことのできなかった予算（総会費の一部）でコロナなどの感染ウイルスの不活化に有効とされるオゾン発生装置を８台寄贈させていただきました。悠久同窓会のお一人お一人の母校教育に対する期待とともに後輩諸氏たちへのエールとして受け取っていただいたものと確信をしております。安全で安心の高専生活を学生たちが送れることを願うばかりです。

高専教育は、今や日本独自の教育システムとしてアジア各国より評価を大とされております。「KOSEN」は世界の標準語として認知され、モンゴル、ベトナムやタイにも「KOSEN」が設立・開校され、それぞれの国を挙げて高い技術力を備えたエンジニアの養成に躍起になっております。阿南高専は、これら海外のKOSENと連携し、学生たちの往来や留学のチャンスを拡げ、国際的に活躍できるスキルの高い学生を世に輩出する環境を整備しつつあります。

徳島県内でも神山町に私立高専「神山まるごと高専」が2023年の開校へ向けて、淡々と準備されております。IT（情報技術）、AI（人工知能）、デザイン、アートなどを学ぶ次世代型の高専教育を旨とする私立高専であります。昭和38年に高専２期校として生まれた阿南高専もこの新しい高専と切磋琢磨しながら、大変換を迎える時流の最先端の波を制御する技術者輩出の教育の場として日本や世界で必要とされる学校であり続けてほしいと感じております。

歴史に学べば、今回のコロナ感染拡大は確実に世界の経済や社会の在り方を変えるものとなるでしょう。２世紀前はコレラの大流行、１世紀前にはスペイン風邪の大流行そのたびに世界の中心がアジアから欧州に、また欧州から米国へと変わっていきました。100年に１度の疫病の流行がその都度、世界の地図を変えてきたのです。今回のコロナの感染拡大も例外でなく、米国の民主主義が揺らぎ始め世界の覇権争いが激化するのか、この先どのような世界へと変貌を遂げるのか、予断の許さぬ状況に戸惑うばかり。しかし、世界の中心が変わろうともスキルの高い工業技術者（特にITおよびAI技術者）の需要は、これからも増すことでしょう。特に日本の経済界においては既に各企業がその分野での人材不足に悲鳴を上げています。より高度な技術者を世に排出する土台となる高専教育に私たち同窓生として大いに関わり、これからの大きく変化する社会に貢献できる学生への応援と教育現場での環境づくりを支援することによって卒業生なりの貢献ができればと強く思うところです。

最後となりますが、まだ収束の気配すら見えないコロナ禍の中ではありますが、本年が希望と笑顔に満ち溢れる良き一年となりますことと悠久同窓会会員の皆様方のご健康・ご健勝・ご繁栄と幸福を心からご祈念申し上げ、「新年のあいさつ」とさせていただきます。

学校だより

阿南高専の学びをとめない

教務主事
坪　井　泰　士

悠久同窓会員の皆様、新春のおよろこびを申しあげます。

令和２年度入学検査の志願倍率は 1.34 倍でした。

令和２年３月の卒業式は突然のコロナ禍により、阿南市文化会館（夢ホール）ではなく、学校での教室開催としました。感染予防を第一としたため保護者の方に入室いただけなかったのはたいへん残念でしたが、担任から一人一人に卒業証書を渡して声をかけ、記念写真の撮影もできました。そして、５年 153 名（就職 107 名：求人倍率 24.2 倍、進学 44 名）が新たな一歩を踏み出しました。

４月の入学式は体育館で、新入生と保護者１名参加により実施しました。その後、学生と地域の方々の安心と安全のため、臨時休業として準備を整え、５月より遠隔授業を行いました。慣れない形での授業に苦労する中、学生は懸命に学び続けてきました。途中、実験実習登校（学年別に、実験実習を集中的に実施）を行いました。

この間、新型コロナウイルス感染予防などの対策と環境を整え、２週間の夏季休業をはさんで、８月下旬からは対面授業を再開しています。後援会のご支援をいただき、１年生と２年生を対象とする補習も定着してきました。定期試験前の１週間、先輩学生が付き添う寺子屋形式での実施ですが、後期中間試験期での参加は、延べ 223 名となりました。

例年、体育館に多数の企業が参加して実施する企業研究セミナーも、遠隔での実施となりました。12 月の土日に、zoom により開催しました。企業（260 社）と学生（４年生、３年生）がリモートでつながり、企業からの就業内容などの説明ののち学生との質疑を行いました。

この文書を綴っている 12 月中旬、徳島県内での感染状況は落ちついていますが、隣県をはじめとして国内での感染は予断を許さない状況となっています。

今後とも、安心安全を大切にし、確かな力を獲得するため学び続けられる阿南高専であるよう努めて参ります。

たいへんな時期が続きますが、みなさまと阿南高専にとってより良き一年となりますように。

コロナ禍の学生の歩み2020

学生主事
勝　藤　和　子

悠久同窓会の皆様、新年あけましておめでとうございます。昨年度より学生主事を務めております一般教養の勝藤です。よろしくお願いいたします。

さて、令和２年度はコロナ禍の緊急事態宣言のもとで始まり、さまざまな学校行事が制約を受けざるを得ませんでした。例年５月に実施していた新入生研修は、秋に一旦延期されるも、最終的に中止になりました。その後も、体育大会や蒼阿祭、四国地区高専総合文化祭を中止することになり、開催を楽しみにされていた学生・保護者・悠久同窓会の皆さまには、たいへん申し訳なく思います。中でもクラブ活動は特に制約を受け、徳島県高校総体や四国地区高専大会は代替大会に置き換えられ、全国大会の開催は叶いませんでした。本校のクラブ活動は、３～５月は全面的に禁止としていましたが、５月の登校日を経て６月から開始された実験実習の実施に伴って段階的に文化・体育活動の機会が提供されるようになり、１年生へのクラブ見学や勧誘も始まりました。対面授業開始後の９月からは、競技ごとの感染予防のガイドラインに基づき、感染予防を万全に行いながら、クラブ活動が再開されました。代替大会や新人大会への出場を皮切りに、徐々に参加できる大会や試合、強化合宿、記録会、コンテスト（オンライン開催）などの数も増え、現在、クラブ活動は、ほぼ通常の姿が戻っています。幸いにも、本日（これを書いていますのは１月 21 日です）まで、本校から陽性者はまだ出ておりません。これはひとえに学生の皆さんが、登校前の検温、体調チェック、前日の立ち寄り先の記録を励行し、３密を避け、健康管理に努め、また、保護者をはじめ悠久同窓会の皆さまが学校の活動を支援して下さった結果だと思います。

悠久同窓会から、10 月に感染防止対策としてオゾン空気清浄機８台をご寄贈いただき、保健室や学生相談室などに設置させていただきました。さらには、同窓会員にゆかりのある日亜化学工業株式会社様、株式会社ＧＦ様から、新型コロナウイルスの影響で困窮している学生への支援として多額のご寄附をいただき、奨学金や感染対策に有効に活用させていただいております。これもひとえに同窓会員の皆様のご活躍の賜物と心より感謝申し上げます。

また、今後万が一、本校で感染が発生した場合、濃厚接触者の確認作業を迅速に行えるように、学生の皆さんには日々の健康確認の励行を指導するとともに、感染者やご家族、医療従事者への人権的配慮についても、注意喚起を行なっていますことを申し添えます。

さて、コロナ禍で制限の多かった今年度においても、最善を尽くして頑張った学生たちの活躍をここで紹介いたします。

まず、徳島県高校新人大会では、テニス部男子が２位に輝き、水泳部男子では、200m バタフライほかで日本学生選手権水泳競技大会（インカレ）の出場権を獲得しました。陸上競技部は、徳島県高校新人競技大会で男子走高跳と女子 800 m、1500 mで優勝者が出るほか、徳島県陸上選手権大会の一般男子棒高跳びでも優勝を果たしました。

オンラインで開催された高専ロボコン四国地区大会では、軽音部やプロコン経験者、阿波踊り経験学生など多数の学生有志チームが参加し、Ｃチーム Awa Dancers がデザイン賞をＡチーム Nittac が、特別賞（マブチモーター株式会社）を受賞しました。このうち、Awa Dancers は、全国大会の出場も果たしました。

同じくオンライン開催だった第 31 回全国高等専門学校プログラミングコンテストでは、プログラミング同好会が課題部門で予選を突破し、「ＰＩＮＴ－時空を超えて楽しく学ぶ遠隔授業支援ツール－」が敢闘賞を受賞しました。

12 月７日（土）～８日（日）にオンラインで開催された全国高等専門学校デザインコンペティション 2020 では、今年度本校からは構造デザイン部門に１チームが参加し、本選出場を果たしました。

文化系のクラブ活動や学生会もいきいきとした活躍を見せてくれました。まず、学生会が、11 月５日にフェニックス広場で「ハロウィーン仮装イベント」を企画開催してくれました。学生の皆さんは、感染対策をしっかりと行いながら、趣向を凝らした色とりどりの仮装とマスク姿で現れ、束の間の時間でしたが、自粛疲れを癒しました。12 月 17 ～ 18 日には軽音楽部のライブがフェニックス広場で行われ、クリスマス前の 23 日には、吹奏楽部が ANAN ルミナスタウンプロジェクトウィンターイルミネーション 2020「あなん光マンダラステージ」で演奏を披露し、日頃の練習の成果を発表する機会を得ました。ストリートダンス同好会は、１月 13 日に第一体育館で、十分な感染対策を行った上で、元気いっぱいのパフォーマンスを披露しました。

最後になりましたが、今年度本校の学生が一丸となってコロナウイルス感染予防に取り組むために作ったスローガンをご紹介し、結びとさせていただきます。

「意識を一つに、
　見えない敵に立ち向かう
　　意識を高めて感染予防」

これからコロナ禍でも学生が活躍できるよう、教職員一同、より一層の感染予防に努め、一丸となって学生の生活や活動を支援していきます。今後ともご理解、ご協力、よろしくお願い申し上げます。

学寮（明正寮）便り

寮務主事
原　野　智　哉

悠久同窓会員の皆様、令和３年新年あけましておめでとうございます。令和元年から寮務主事しています機械コース　原野智哉です。令和２年は、コロナ感染対策に明け暮れた年になりました。４月からの開寮が遅延し、実際に実験実習ウィークと題して部分的開寮を開始したのは６月でした。寮では「感染源を持ち込まない」、「感染しない」、「感染させない」をスローガンに対策をおこなってきました。個室を基準とし学年とクラスを限定して８月上旬のお盆休みまで、部屋割りを変更して対応しました。

苦心したのはマスク着用が不可能な入浴・食事時に不特定多数の寮生と会話を避ける時間指定と密集回避を行ったことです。食事や入浴もクラスターの発生防止と濃厚接触者の特定迅速化のため、同号館同階の寮生が同じ時間帯において、食事では毎回同席、入浴は同脱衣ボックスを指定し、毎回同じシャワー位置で行うように配慮しました。食堂では、手洗いと手指消毒を徹底できるよう動線を工夫し、食卓では前面に衝立を配置し、会話を自粛し、飛沫が前の人にかからないように対策しました。

食堂パーティション

また、寮内は原則マスク着用とし、２人以上の複数人部屋での感染対策として、就寝までマスク着用を義務付けし、就寝後の飛沫拡散を防止するため、カーテンをベッド周囲に設置する工事を８月下旬まで実施し、全寮生が入寮できる準備を行いました。カーテン設置工事については、5C 奥村公香さんを中心とする建設コースの学生数名が奥村工務店としてカーテン敷設工事を多田豊教員指導の下、校長からの請け負い業務として実施しました。8 月23日(日)に全寮生へ開寮された際には、これでやっと新年度が迎えられたという感激で胸が一杯になりました。

カーテン敷設状況

入寮にあたっての寮の部屋割にも、感染対策の工夫を行いました。遠方の学生は体調不良になった際にはすぐに帰宅できないハンディキャップがあり、複数人部屋において同室の寮生との隔離がすぐに行うことが困難なことを考慮

し、個室には遠方の県外学生や留学生を配置し、通学時間が長い順に一人部屋から２人部屋、３人部屋へ順次配置しました。

華　道

現在、寮生の感染対策の頑張りと寮生の体調不良時の保護者の送迎等のご協力により、新型コロナウイルス感染は寮内で発生致しておりません。この場を借りてお礼申し上げます。10月以降は、恒例の華道・茶道は１年生対象に人数を絞って実施し、インターネットトラブルに関する特別講演会も行うことができました。寮祭を行うことは叶いませんでしたが、役員寮生や各委員会委員の勧誘を兼ねた１年生と高学年の交流会、豪華なクリスマスツリーを各号館玄関に飾るイベント、新年企画として書初め大会など１年生を中心に楽しい交流企画となるよう、心のケアも配慮し、３密を避ける感染対策をしながら実施しています。

クリスマスツリー

最後に、今年最もうれしかったのは、過去３年間継続してきた環境委員のゴミゼロ運動が徳島県知事に認められ「とくしま環境賞」を受賞したことです。この活動は、徳島新聞の今日エコプロジェクトにも大きく紙面に取り上げられました。今後もこの活動を継続し、寮の運営をはじめとし、寮生が自主運営し、寮生自身の心身の成長のためのさまざまな活動が継続できるよう支援していきたいと思います。

とくしま環境賞

寮内勉強会

一般教養便り

一般教養主任
田　上　隆　徳

悠久同窓会の皆様には、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。昨年度から一般教養主任を務めます田上です。どうぞよろしくお願い致します。先ず一般教養の人事についてご報告致します。

令和２年の春に、城本春佳先生が四国大学文学部講師として移動されました。城本先生は平成23年に赴任され、英語教員として学生の英語力向上に貢献されました。また、国際交流室員としても留学生の良き理解者として、本校の国際交流の活性化に寄与されました。城本先生の新天地でのご活躍をお祈り申し上げます。

今年度は一般教養は２名の新しい先生をお迎えしました。浮田卓也先生と福井龍太先生です。浮田先生は岡山県のご出身で、数学を担当されます。ご専門は位相幾何学です。今年度は寮監として、寮生の生活面をサポートして頂いています。福井先生は山形県のご出身で、英語を担当されます。ご専門は言語学です。今年度は教務主事補として学生の成績や入試に関する業務に携わって頂いています。お二人ともお若くエネルギッシュであり、今後のご活躍が期待されています。

次に一般教養の先生方について近況をご報告致します。国語は坪井泰士先生、錦織浩文先生（教科主任）です。

主な校務は以下の通りです。（各教科とも同じ）

坪井先生　　副校長（教務主事）
錦織先生　　広報情報室長、１年２組副担任

社会は藤居岳人先生（教科主任）、今田浩之先生です。

藤居先生　　１年１組担任（学年主任）
今田先生　　2I 担任、図書館長

英語は勝藤和子先生、谷中俊裕先生、藤井浩美先生（教科主任）、プロワント先生、福井龍太先生です。

勝藤先生　　学生主事
谷中先生　　2M担任
藤井先生　　１年２組担任
城本先生　　2I 担任、国際交流室副室長
プロワント先生　　寮務主事補、2E副担任
福井先生　　教務主事補、国際交流室員

体育は新井修先生（教科主任）、中島一先生です。

新井先生　　副学生主事、１年３組副担任
中島先生　　２E担任

理科は松尾俊寛先生（教科主任）、山田洋平先生、園田昭彦先生です。

松尾先生　　学生相談室長、１年１組副担任
山田（洋）先生　　2Z担任
園田先生　　１年３組担任

数学は櫛田雅弘先生、山田耕太郎先生、西森康人先生、浮田卓也先生、田上（教科主任）です。

櫛田先生　　副教務主事、2M・2I副担任
山田（耕）先生　　１年４組担任
西森先生　　2C担任
浮田先生　　寮監、１年４組副担任
田上　　一般教養主任、2C・2Z副担任

今年度は新型コロナウイルス感染防止のため、オンラインによる遠隔授業など、学生の安全を第一とした様々な取り組みを行っています。「学生たちの学びを止めない」とのスローガンのもと、学校全体でより良い教育を目指して頑張っておりますので、どうぞご支援ご協力の程よろしくお願い致します。

最後になりましたが、悠久同窓会の皆様の益々のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。

機械コース便り

機械コース主任
西　野　精　一

悠久同窓会会員の皆様には、ますますご健勝でご活躍のことと存じます。本年度の機械コース主任を務めさせていただいています西野です。よろしくお願いします。

令和３年となり「創造技術工学科」３期生の卒業を迎える時期となりました。本年度はコロナ禍において、前期はオンライン授業が中心となりましたが、工場実習や機械工学実験を２週間程度で集中的に行うことで乗り切ることができました。毎年夏休みに実施している中学生一日体験入学も、コース紹介ビデオや実験実習内容のビデオを作成することで機械コースの内容を中学生に伝えることができたと思います。同窓会の皆様も阿南高専 HP の次のアドレスから御覧ください。https://www.anan-nct.ac.jp/taiken2020/

さて今年度の卒業予定者は33名であり、19名が就職、13名が進学予定です。従来よりも進学予定者が多くなっています。求人企業数は、卒業生の皆さんのご活躍のおかげで、本年度も20倍を超えており、全ての就職希望者が内定を頂いています。今年度の特徴は、機械・製造メーカーだけでなく、化学系の企業や医薬品系の企業等、幅広い分野へ就職予定となっている点です。具体的には、日亜化学工業、大塚製薬工場、東亞合成、大塚化学、テクシード、四国電力、大阪ガス、サントリー、P&G、ダイキン工業、富士ゼロックス四国、シオノギファーマ、JXTG エネルギー、三菱ガス化学、成田空港給油施設、椿本チエイン、京都製作所となっています。進学先は、専攻科（5）、岡山大学、豊橋技術科学大学（2）、九州大学、京都工芸繊維大学、千葉大学となっています。

例年、機械コースでは２年から４年の各学年で見学旅行を実施していますが、本年度はコロナ禍の中、４年生の水力発電所見学のみとなりました。今後、卒業生のみなさんがご活躍されている会社を見学させていただく機会もあると思いますのでその際にはよろしくおねがいします。

機械コースは、よりよい教育を目指して教職員一同力を尽くしていますので、今後ともご支援よろしくお願いします。

電気コース便り

電気コース主任
中　村　雄　一

悠久同窓会会員の皆様には益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。昨年度に引き続き電気コース主任を務めています中村です。よろしくお願いいたします。

まず今年度はスタッフの異動が多くありましたのでご報告いたします。中村厚信先生が化学コースに配置換えとなり、替わりに釜野勝先生が電気コースに戻ってこられました。高専機構本部に出向されていた上原信知先生が機構本部に留まることになりました。上原先生の代替教員として勤務されていた香西貴典先生が講師として採用されました。西尾峰之先生が企業の研究職に転出され、新たに朴英樹先生が助教として着任されました。さらに、藤原健志先生が昨年４月付で講師に、小松実先生が今年１月付で教授に昇任されました。

各教員の活動状況等についてご報告いたします。松本高志先生は昨年度に引き続き創造技術工学科長として、また国際交流室長として学校運営で幅広く活躍されています。長谷川竜生先生も昨年度に引き続き専攻科長補佐および２ES の担任として専攻科の運営や進路指導に努

められています。小松実先生は教務主事補として教育改善に尽力されています。釜野勝先生は寮務副主事として学寮でのコロナ感染防止対策に徹底して対応されました。小林美緒先生は学生主事補として日々の学生指導に努力されています。藤原健志先生は3E担任および進学担当として学生の進路相談に取り組んでくれています。香西貴典先生は4E担任として学生のインターンシップ先の調整や本校開催の企業研究セミナーにおける遠隔システムの設定等で活躍されました。朴英樹先生は3E副担任として、学生たちの良き相談相手を務めてくれています。

今年３月の卒業予定者の進路状況についてご報告いたします。就職希望者全員が進路を決定しています。就職先企業として、県内では大塚化学、大塚製薬工場、大塚テクノ、四国日立、東光、東邦機械工業より内定をいただきました。県外ではNTTファシリティーズ、花王、関西電力、サントリー、四国電力、神鋼テクノ、JXTGエネルギー、セイコーエプソン、大真空、日本通信エンジニアリングサービス、パナソニック株式会社アプライアンス社、本州四国連絡高速道路、明電舎、山崎製パンより内定をいただきました。また、進学希望者は、阿南高専専攻科、大阪大学、豊橋技術科学大学、長岡技術科学大学、徳島大学から合格を得ています。

今年度は新型コロナウイルスのため遠隔授業の実施や学校行事中止など多大な影響を受けました。そのような中でも学生達は、将来のため資格取得に努めていました。特に第２種電気工事士試験には３年生を中心に多くの学生が挑戦しました。12月の実技試験前の放課後には電気棟１階電気機器Lab.において実技練習に取り組む多くの学生の姿が見られました。技術職員の尾﨑貴弥先生（電気電子工学科OB）が熱心に指導にあたってくれました。この様子には藍谷先生が指導してくれていた学生当時を懐かしく思い出しました。また、10月には電気主任技術者免状に係る認定校に対する立入調査を受けましたが、本校・電気コースは問題なく継続して認定校となりました。資格取得に対する指導にも力を入れ、企業から即戦力として評価していただけるよう努力してまいりますので、会員の皆様にもご支援ご協力をお願いいたします。

電気工事士実技試験に向けた練習風景

コロナ禍の状況が一日も早く解消され、平穏な日々が戻るよう願うとともに、悠久同窓会の皆様の益々のご活躍とご健勝をお祈り申し上げ、電気コースからの便りとさせていただきます。

情報コース便り

情報コース主任
吉　田　　晋

悠久同窓会会員の皆様方、情報コース主任の吉田です。今年度は新型コロナウイルス対応に追われた１年となりました。リモート授業への対応、各種イベントの中止、コンテストや学会発表もオンライン開催となりました。そんな中、今年度の全国高専プログラミングコンテストは、オンライン開催となりましたが、１チームが課題部門で予選を通過し本選に出場しました。また、情報コース５年生のチームがディープラーニングコンテストの全国大会にも出場しました。学会活動では、令和２年度計測自動制御学会四国支部学術講演会を阿南高専が主管でオンライン開催し、情報コース５年生15名を含む阿南高専生から多くの学生が発表しました。電気関係学会四国支部連合大会にも情報コース５年生２名が発表しました。新型コロナの影響で中学生一日体験も中止になりましたが、とくしま科学技術アカデミー事業の小中学生向け「サイエンスラボ」の中で、情報コース５年生主体で11月８日（日）に、１ブース３名限定で８ブースを開設し中学生に情報技術体験を実施しました。さらに、今年度は第１回U-16プログラミングコンテスト阿南大会「プログルを使った小学生競技部門」を開催しました。

ここで、情報コースの近況についてご報告いたします。田中達治先生は、副校長に就任され豊富な経験と本校OB・OGや企業との繋がりを活かして学内外の校務で活躍されています。杉野先生は、引き続き地域連携・テクノセンター長として、地域企業およびACT企業との連携および内閣府の地方大学・地域産業創生事業の推進に活躍されております。福田先生は、就職担当として５年生の就職活動を支援しながら、３年生の担任として３年生への指導にも尽力してくれています。岡本先生は、総合情報処理室長を務めながら５年生の担任として、卒業に向けて細やかな学生指導を行いながら、ディープラーニングコンテストへの学生指導で活躍されています。福見先生は、学生主事補として学生の指導に取り組むと共に、水産研究所との連携研究にも力を入れて取り組まれています。安野先生は、教務主事補とワークライフバランス・男女共同参画責任者、点検評価委員長を兼務され、校務の改革に取り組まれています。平山先生は、４年生担任と進学担当、総合情報処理室、ホームページ担当、キャリア教育担当を兼務され、今年度はコロナ禍でのオンライン企業合同セミナーの実現に大きく貢献されました。太田健吾先生は、人事交流制度を利用され１年間豊橋技術科学大学に所属され研究活動に専念されています。

次に５年生の進路状況ですが、就職21名、進学12名の進路が決まっています。データサービス、テクノモバイル、セイコーエプソン、サイバートラスト、富士通アプリケーションズ、NTTネオメイト、e-grant、ソフトサービス、日立ハイテクソリューションズ、NTT-ME、エクセディ、中央エンジニアリング、神鋼テクノ株式会社、サイファーテック、メンバーズ、大鵬薬品工業、ダンクソフト、ジャパンコミュニケーションズ、悠林舎、美波町役場、国家公務員、豊橋技科大、長岡技科大、京都工芸繊維大、電通大、信州大、専攻科などです。

最後に、悠久同好会の皆様方のご多幸と今後のますますのご発展をお祈り申し上げますとともに、今後の情報コースの発展に応援をいただけることをお願い申し上げます。

中学生向け情報技術体験の様子

建設コース便り

建設コース主任
笹　田　修　司

同窓生の皆様には、益々ご盛栄のこととお喜び申し上げます。昨年度に引き続き建設コース主任を務めております笹田です。よろしくお願いします。

まず、建設コース教員の人事や校務等の近況についてご報告いたします。まず、川上周司先生が４月に准教授に昇任されました。また、昨年度は育児休業であった池添純子先生が、３月末に退職され、その間の代替教員として勤務されていた多田 豊先生が４月より講師として赴任されました。建設コース内での主な校務を挙げますと、堀井克章先生が4C担任とキャリア教育・インターンシップ担当、松保重之先生が3C担任、吉村 洋先生が専攻科長、森山卓郎先生が5C担任と就職担当・進学担当、長田健吾先生が教務主事補と構造設計工学専攻科長補佐、川上周司先生が学生副主事、多田 豊先生が寮務主事補、そして笹田が3C副担任を、それぞれ担当しております。

今年度の卒業予定者の進路は、県内就職が３名、県外就職が14名、進学が３名です。県内就職先は、四国建設コンサルタント㈱、㈱フジタ建設コンサルタント、㈱姫野組住宅センター、県外就職先は、五洋建設㈱、シンヨー㈱、東急建設㈱、住友金属鉱山㈱、㈱神鋼環境ソリューション、阪神高速技術㈱、㈱鴻池組、東京水道㈱（旧東京水道サービス㈱）、東洋建設㈱、㈱浪速技研コンサルタント、（地方共同法人）日本下水道事業団、トヨタウッドユーホーム㈱、クリアウォーターOSAKA㈱、国土交通省四国地方整備局職員です。また、進学先は、阿南高専専攻科、九州大学、徳島大学です。学生への就職求人については、本年度も悠久同窓会会員の皆様の所属する企業からも問合せや求人票を多数いただいており、良好な求人状態が継続しております。

本年度の建設コースの行事は、新型コロナウイルス感染症の影響で２年生の配属歓迎会をはじめ、徳島県技術士会のご支援で行っている出前講座など毎年恒例の主要な行事は全て実施できませんでした。しかしながら、関係者各位のご尽力で11月４日午後に建設コース２年生は吉野川の河口で建設中の四国横断自動車道吉野川大橋（仮称）の工事現場見学に行くことができました。滅多に立ち入ることができない架設中の橋梁の現場見学は、かけがえのない体験になったと思います。

最後になりましたが、今後もより良い教育をめざして、充実した教育活動を展開していきたいと思いますので、ご支援ご協力をよろしくお願いいたしますとともに、悠久同窓会員の皆様の益々のご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。

四国横断自動車道吉野川大橋（仮称）工事現場の見学

化学コース便り

化学コース主任
吉　田　岳　人

悠久同窓会会員の皆様には、ますますご健勝でご活躍のことと拝察申し上げます。化学コース主任の吉田岳人と申します。

化学コースは昨春、二期目の本科卒業生を送り出しました。一・二期生は、県内外の企業・大学で活躍するとともに、専攻科応用化学コースに進んで引き続き勉学と研究に励んでいる学生もいます。専攻科応用化学コースも本年度をもって充足し、今春初めての修了生を輩出する予定です。これをもって、平成26年度に新設された「化学コース」が7年かかりで、一通り形を成すことができました。

本年度の本コースの教員とその担当を報告いたします。西岡守先生（化学コース産学連携）、中村厚信先生（3Z担任）、吉田岳人（主任）、一森勇人先生（寮務主事補）、大田直友先生（4Z担任）、小西智也先生（教務副主事）、大谷卓先生（5Z担任、就職担当）、鄭濤先生（学生主事補）、杉山雄樹先生（3Z副担任、進学担当）です。以上の教員で、授業（講義・演習・実験）、学生指導、校務運営に当たっています。授業内容は6本柱である、物理化学、無機化学、有機化学、生物化学、化学工学、環境生物学を、各学年進度に合わせて配置し、国立高専機構で定めた、モデル・コアカリキュラムをクリアできるよう進めています。

本年度は新型コロナウイルスの感染拡大により、社会・産業構造の変革を余儀なくされました。また2050年までに、やはり社会・産業活動における脱炭素化が政府により宣言されるに至っています。さらに今後20年以内には、量子コンピュータの実用汎用化をはじめとするDXが劇的に進行するとされています。化学関係では創薬開発、他の分野では地球規模の気候変動や台風の予測、さらに地震の予測などの分野においても、ICT化の進展が必須と考えられます。本コースでは、50年後にも活躍できる化学系技術者・研究者の育成を目指して、その基礎となる量子化学等の授業にも、先進的に取り組んでいます。

本年度三期生24名の進路状況です。就職では、三洋化成、日本たばこ、ダイセル、大塚製薬工場(2)、日東電工(2)、日本触媒(2)、大日精化工業、大塚製薬、三菱ガス化学(2)、第一工業製薬などの県内外の有名企業に内定しております。進学では、千葉大［工］、京都工芸繊維大［応化］、岡山大［理］、岡山大［工］(2)、徳島大［応化］(3)、徳島大［応理数］、豊橋技大(2)に合格しています。好調であった一・二期生に準ずる進路確保ができたことは、本コースの教職員のみならず、悠久同窓会会員の皆様をはじめとする学内外の方々の多大なご支援・ご協力の賜物であると感じており、心より感謝申し上げます。

教育・研究環境としては、有機化合物の構造解析において不可欠のNMR（核磁気共鳴）装置をはじめ、創立50周年記念材料工学棟などに設置されている装置類（全20台）を、学生実験の段階から本コース学生が学びます。これら評価・分析機器類を地域企業などの方々にも広くご活用して頂き、共同で課題解決、できれば新規事業のシーズを育てたいと考えております。

なお、創立50周年記念材料工学棟は、地域の多くの企業及び機関・団体様並びに卒業生を初めとする個人の皆様のご寄付により設立されたものであります。またNMR装置は日亜化学工業（株）様のご寄付による材料化学（日亜化学）講座事業の一環として導入されたものです。改めて記して深い感謝の意を表します。

今後もこれまで同様、化学コースにご支援ならびにご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。末筆ながら、悠久同窓会会員の皆様の益々のご健勝とご清栄を祈念申し上げます。

広報情報室より

広報情報室長
錦　織　浩　文

広報情報室が開設されて12年目、令和2年度の取り組みの概要をご報告いたします。

今年度はコロナ禍により広報活動についても多くの制約を受けました。6月に計画していた高専説明会（藍住町、淡路地域）は会場の事情により中止となりました。一方、校長、広報情報室長による県内中学校長会役員校への訪問は例年通り行い、また、7月～11月、中学校主催の進学説明会に出席し、説明を行いました。

毎年8月に開催している中学生一日体験入学は実地においては行わず、本校ホームページに「バーチャル体験入学」として学校紹介、コース紹介の動画を公開しました。9月～11月の入試説明会についても同様に、ホームページに「バーチャル入試説明会」として説明動画等を公開し、実際の会場においては個別相談会を行う形としました。

高専の良さを中学生に理解してもらうには体験型の取り組みが最適であることはいうまでもありません。少しでも早くコロナ禍が終息し、中学生一日体験入学、公開講座、出前授業など、体験型の取り組みが再開できますことを心待ちにいています。そして、様々な制約の中にあっても充実したスクールライフが体現できるよう、日々の学校生活においても種々工夫していきたく思います。

阿南高専の良さを多くの人に知ってもらうための活動をこれからも考え、取り組んで参ります。悠久会員の皆様のご理解とご協力を賜りますよう、今後ともよろしくお願い申し上げます。

専攻科より

専攻科長
吉　村　　洋

悠久同窓会の皆様には、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。専攻科長を仰せつかっております吉村と申します。よろしくお願いします。

専攻科は昨年度、改組されて創造技術システム工学専攻となり、その1期生がこの春に修了します。改組後の創造技術システム工学専攻は1専攻で機械システムコース(AM)、電気電子情報コース（AE)、建設システムコース(AC)、応用化学コース（AZ）の4コースで構成されています。

創造技術システム工学専攻の1年生はAMが6名、AEが11名、AZが4名の21名が在籍し、1AM・1AZの担任は松浦史法先生、1AEの担任は杉野隆三郎先生となっております。また、2年生はAMが4名、AEが9名、ACが2名、AZが2名の17名です。2AM・2AC・2AZの担任を長田健吾先生、2AEの担任を長谷川竜生先生が担当しております。

1年生は、9月から3か月の間、インターンシップ期間となっており、これまでは海外の大学に派遣することができていましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、それがままならず、ACT企業をはじめとする国内企業、大学等でインターンシップを行いました。インターネット等を利用したリモートでの実習の指導であったりしたことで、多少の戸惑いもありましたが、受け入れ企業等の丁寧なご指導により、インターンシップの目的を達することができました。

2年生は、授業や特別研究の実施に新型コロナウイルス感染症の影響がありましたが、各人のテーマに対してしっかりと研究を進めることができ、高専での学習・研究としての総まとめを迎えることができました。また、2年生の進路については、岡山大学大学院へ1名が進学し、日亜化学工業㈱、大塚テクノ㈱、ソニーデジタルネットワークアプリケーションズ㈱、パナソニック㈱グローバル調達社、住友化学㈱、シオノギファーマ㈱、㈱大林組などの県内外の企業に就職することになっております。それぞれのところでの、活躍が期待されます。

これからも、専攻科での教育・研究環境を整え、より高度な技術者教育に努めてまいりたいと思います。ご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

最後になりますが、悠久同窓会の皆様のますますのご活躍を祈念いたします。

会員だより

近況短信

昭和43年度機械　森　岡　和　美

悠久同窓会会員の皆さまお元気ですか。

昨年は、新型コロナウイルス感染拡大で大変な一年でした。早く終息し、平穏な日常が戻ることを期待いたしたいと思います。

今年も、例年同様、最近の新聞投稿作品から抜粋し、近況報告とします。

会員皆さまのご健勝とご多幸をご祈念申し上げますとともに、悠久同窓会の益々のご発展をお祈りします。

【通信Ⅰ】令和２年１月23日　記

グレタさんの言葉を真摯に受止めよう

世界の政治・産業界のエリートが集うダボス会議がスイスで開催された。米国のトランプ大統領が演説し、自身の経済政策の成功ばかりをアピールし、環境問題については、「悲観的な予言ばかりする」と環境保護論者を批判した。今回のダボス会議は気象変動が大きなテーマであるが、パリ協定からの離脱といい、今回の発言といい、米中など主要排出国が温暖化ガスの大幅な排出削減に前向きでなく、このままではパリ協定の目標達成は極めて厳しい状況である。

この会議に参加したスウェーデンの少女で環境活動家のグレタ・トゥンベリ氏は、演説で「環境問題はなにも進んでいない。大人は悲観的になりすぎるな、私たちに任せておけという。でも、結局はなにもせずに黙っているだけ」とトランプ大統領を痛烈に批判した。

このままで将来の子ども達に美しい地球を引き継ぐことができるのだろうか。ノアの箱舟が再び必要となるような事態を引き起こしてはならない。大人たちはこの少女活動家の言葉を真摯に受止め、具体的な行動を起こすことが真に求められている。

【通信Ⅱ】令和２年１月25日　記

終末時計の進みを止めよう

１月21日、米科学誌「ブレティン・オブ・アトミック・サイエンティスツ」が終末時計の残り時間が100秒になったと発表した。終末時計は地球滅亡までの残り時間を象徴的に示したもので、公表を始めた1947年は７分であったが、それ以降で最短である。この背景は、米のイラン核合意離脱や北朝鮮との非核化交渉の停滞、地球温暖化対策への遅れなどがある。先般スイスで開催されたダボス会議でも、トランプ米大統領の演説からは環境問題への真剣な取り組み姿勢は感じられず、スウェーデンの少女で環境活動家のグレタ・トゥンベリ氏は、「環境問題はなにも進んでいない。大人は悲観的になりすぎるな、私たちに任せておけという。でも、結局はなにもせずに黙っているだけ」とトランプ大統領を痛烈に批判した。

終末時計は1997年冷戦が終了した時に17分の最長を記録したあとは、徐々に少なくなっている。しかし人類の英知と行動で、その進みを止めることはできる。もう二度とノアの箱舟は要らない。世界が協力して、核と地球温暖化の気象変動の脅威から、この地球を守らなければならない危機にさらされている。

【通信Ⅲ】令和２年２月23日　記

法治国家を護れ

思わず耳を疑った。東京高等検事長の定年延長を巡る法解釈変更について、法務省が「口頭による決裁を経た」と発表したからである。

従来、検察官の定年延長は無く、そのことだけでも法令違反の可能性もあるというのに、法律を変えることなく解釈の変更だけで定年延長を可能にするという荒っぽさである。そしてその解釈変更も、法相は「部内で必要な決裁を取っている」と国会でも答弁している。法務省は最初、「正式な決済を取っていない」としていたが、法相の答弁を受けて、冒頭の口頭決裁の発表をした。

法の番人であるべき、法相、法務省がこの体たらくでは、法治国家の名がすたれる。時の政権の都合の良いように法解釈でその制度適用がされるのでは法治国家ではない。独裁無法国家だ。

検察の理念は、「公共の利益のために、法令を遵守し、厳正公平、不偏不党を旨として、公正誠実に職務を行う」となっている。黒川東京高検検事長は、ときの政権が法解釈の変更で定年延長を可能にしても毅然とした態度で、定められた定年で潔く身を引いてもらいたいものだ。それが検察の独立性を護る方策であり、政権に媚びることのない法治国家の尊厳を維持する道である。

【通信Ⅳ】令和２年３月21日　記

森友問題の全容解明を

消しゴムと鉛筆での公文書改ざんが、人を死に追いやるような事があってはならない。「ペンは真実を記し、口は真実を発するが善し」。常にこのことを時の権力者は念頭におき、真摯に政権運営を為すべきである。法治国家で法が護られないのは、無法国家よりも恥ずかしい国である。

学校法人「森友学園」の国有地売却問題を担当していた財務省近畿財務局の男性職員が自殺した。原因は佐川元国税庁長官（当時理財局長）の指示で、決裁文書の改ざんを強制されたことによる。このほど故人の妻が手記・遺書を公表し、国と佐川氏に損害賠償を求めて大阪地裁に提訴した。

提訴資料の内容から安倍首相の国会答弁に端を発し、政権への忖度や保身から幹部官僚が決裁文書の改ざんを指示、違法行為を強要された現場の担当者が、良心の呵責に耐えかねて自殺に追い込まれた経緯が明らかになった。

このところの不祥事は、桜を見る会や検事長定年延長問題など首相答弁や官邸への忖度、つじつま合わせがその原因となっている。安倍首相も事あるごとに、「丁寧に説明する」と言いながら実は、はぐらかし答弁に終始している。国会軽視、国民無視も甚だしい。今こそ裁判のなかで、森友問題もその全容解明を図るべきだ。

【通信Ⅴ】令和２年５月20日　記

国会を空転させる余裕ない

新型コロナウイルス感染拡大の鎮静化を受けて、全国に発令されていた緊急事態宣言も、一部地域を除いて解除された。今後、日常生活や経済活動の正常化に向けて、いかに国として支援していくかが国会での重要な論点になる時期である。しかも少し気を緩めれば、第２波、第３波の感染拡大の懸念もある。

この重要な時に、政府は検察官定年延長を含む国家公務員法改正案を国会に提出し、早期成立を目指してきた。検察官の定年延長については、今年の１月に、東京高検検事長の定年延長を巡る法解釈について、法務省が「口頭による決裁を経た」と発表し、その不明朗さが物議をかもしたところである。さすがに急速な反対の世論の盛り上がりで、今国会での成立を断念したようだ。

検察の理念は、「国民全体の奉仕者として公共の利益のために、法令を遵守し、厳正公平、不偏不党を旨として、公正誠実に職務を行う」となっている。検察はその独立性を堅持し、政権にこびることなく国家権力の暴走を監視しなければならない、検察官上層部の定年延長を時の内閣が決めるというような検察官の独立性を脅かす不要不急の法案審議で、国会を空転させる余裕は無い。

新型コロナ禍の鎮静化をいかに確保し、平常な社会を取り戻すための諸制度をいかに整備していくかが、今の国会に求められている任務である。

【通信Ⅵ】令和２年５月20日　記

新型コロナ禍が私たちに突き付けたもの

新型コロナウイルスの感染は、日本では第１波は沈静化傾向にあるとし緊急事態宣言も解除されたが、ここにきて第２波の感染が心配な状況もあり予断を許さない。

新型コロナ禍は私たちに様々な課題を突き付けた。私たちは、知恵と工夫で対処してきたが、なかには目を疑うような光景も散見された。デマや流言を真に受けて慌てふためく人、「自粛警察」を自認する人、「感染者叩き」に血道をあげる人などなどだ。

緊急事態宣言解除後は、「新生活様式」に過剰反応して他人の行動にクレーマーと化する人も現れている。これまでの通常社会生活のなかで隠されていたものが、表現は悪いが「新型コロナ禍」という試験問題で、一気に解答を求められたようなものだ。

【通信Ⅶ】令和２年９月13日　記

政治を注視し、民意反映を

安倍晋三首相が持病悪化の健康上の理由で、８月28日突然辞任を発表した。新型コロナウイルス２次感染拡大の状況下でもあり、周辺に相談することなく、深慮の末の自身の決断であろう。安倍政治７年８ケ月は終わりを告げた。急なことで政治の空白を避ける必要もあるとの認識より、自民党各派閥間調整の余裕もなく、ポスト安倍は、安倍路線継続を掲げる無派閥の菅義偉氏が５派閥より支持を受け、自民党総裁に選出された。支持した派閥は残り１年間の菅内閣で、いかに影響力を発揮し、ポスト菅での覇権争いに勝つかに腐心している。

また、ときを同じくして、野党も分裂、合流の結果、約150名の国会議員を擁する立憲民主党が新発足した。更に、来年10月には、衆議院議員の任期を控えており、いつ解散・総選挙があってもおかしくない状況だ。国民にとって、安倍１強で国民目線からずれた政治を見直す絶好の機会が訪れようとしている。長期に亘った安倍政治を自らの目で十分点検し、来るべき総選挙で民意を反映できるよう政治を注視しよう。

【通信Ⅷ】令和２年10月13日　記

日本学術会議の独立性を守れ

日本学術会議の会員選考で政府と同会議の軋轢が生じている。会員数は210人で任期は６年、半数が３年毎に改選される。今年は改選の年であり、会員候補105人を同会議が推薦したところ、６人の任命を拒否したという。

日本学術会議の設立使命は、同会議法で、「科学が文化国家の基礎であるという確信に立って、科学者の総意の下に、わが国の平和的復興、人類社会の福祉に貢献し、学術の進歩に寄与する」と定めている。また第３条で、「独立して、職務を行う」とある。政治家、官僚から「独立」して「科学の向上発達を図り、産業及び国民生活に科学

を反映浸透させる」ことを目的としている。

政府は今回の６人の任命拒否の理由を問われ、「法に従って総合的、俯瞰的に判断した」と回答している。「俯瞰的に」とは、「広い視野で、客観的に」という意味であろうが、拒否理由の説明にはなっていない。そのはぐらかし論法からは、「上から見下す、上から目線」という意味に解釈でき、政権に都合の悪い科学者を排除したと感じてしまう。

科学は多様な意見、議論がなされてこそ正常に発達するもので、文化国家の基礎になりうるものである。時の政権に都合の良い意見ばかりを優遇することでは、真の文化国家たり得ない。学術会議の設立趣旨を遵守し、その独立性を守る必要性を認識すべきだ。

【通信Ⅸ】令和２年10月15日　記

核兵器禁止条約 早期批准を

非政府組織（NGO）「核兵器廃絶国際キャンペーン」（ICAN）によると、10月24日に中米のホンジェラスが核兵器禁止条約を批准したとのことだ。これにより条約の発効に必要な50の国、地域の批准が集まり、来年１月22日に条約が発効することになった。条約は核兵器を非人道的な兵器として初めて法的に禁止した国際条約で、核兵器の無い国際平和への始まりの大きな一歩である。

核兵器の廃絶をめぐって、日本は唯一の戦争被爆国として核保有国や「核の傘」のもとにある国々と非保有国との橋渡し役を果たすとする一方、アメリカの「核の傘」に頼る日本は、核兵器禁止条約は現実的な核軍縮にはつながらないとして反対する立場をとっている。ICANの事務局長は条約に参加しない日本を「（核廃絶を求める）合理的な国際社会から足を踏み外した」と批判している。

核兵器廃絶に向けた議論の進展は国際的な流れであり、唯一の被爆国として日本はその立ち位置を明確にして、国際協力を惜しんではならない。条約は、各国が目指す「核兵器なき世界」の理想を体現するものである。核保有国・非核保有国を問わず、核兵器そのものを違法化するための動きを決して阻害してはならない。日本も早期に核兵器禁止条約を批准すべきだ。

【通信Ⅹ】令和２年12月12日　記

コロナ禍の成人式に工夫を

徳島新聞12月11日付２「議会ファイル」を見て、少し考えさせられた。阿南市議会の市側の答弁だ。

「14会場に分散して行う来年の成人式は、（新型コロナウイルスの）感染リスクを抑えるため全会場で記念撮影を行わない。新成人は会場によって10～100人と異なるが、記念撮影の公平性を考慮した」と書かれている。

つまり３密を避けて、10人の会場では全員揃って記念撮影が可能だが、100人の会場では３密になるので全員揃っての記念撮影はできない。会場によって不公平になるので、全会場記念撮影を中止して公平性を保つ。という理屈であろうが、果たしてそうなのかな？と首を傾げてしまった。

成人式は一生に一度しかない晴れの日だ。同郷の仲間との記念写真は、一生の宝物だ。多人数の会場は地域ブロックごとに分けて、例えば25人単位の４ブロックで撮影するとか工夫できないものであろうか。全員一斉ではないが、それこそ、そのぐらいの“不公平”は、新成人には許してもらえるだろう。不公平になるから止めるというのではなくて、工夫して少しでも公平性に近づける努力を御願いしたいものだ。この厳しい状況下、新成人の前途に幸多かれと祈る次第である。

勝手に書きます！

言いたい放題名作映画紹介

第６回

昭和43年度機械　乾　寛

すでに人生の第四コーナーを回ったところで、かつて経験したことのない事件が発生した。新型コロナウイルスという感染症の蔓延である。春先からずっと半年間も映画館に行ってないのは初めての経験である。外出できないから自宅にこもる時間も多く、以前見逃した映画や古い映画も何本か見た。その中から、派手さは全くないがしっとりと考えさせる洋画と邦画各１本を選んだ。映画のおもしろさはさまざまであり、画面から直接訴えかけてくるスペクタクルや緊張感、あるいは上手くはめ込まれた伏線やストーリー展開に思わず唸ってしまうこともあるが、本当の映画のおもしろさとは心に自然と感動をもたらすものかも知れない。洋画は、戦争映画ではあるが全く派手さはなく、邦画は、ごく普通の公務員の半生を描いた退屈そうな物語ではあるが、私にとっては両作品ともかなり強烈に心揺さぶられた作品である。例年通り今回紹介する映画もかなり古いものであるが、訴えかけてくる内容は決して古くない。「西部戦線異状なし」は、今現在（11月）はアマゾンプライムで無料鑑賞できる。

「西部戦線異状なし」1930年　ルイス・マイルストン監督　リュー・エアーズ

第一次世界大戦のドイツ・フランス国境が舞台である。終戦が1918年であるから、その約10年後に制作された反戦映画である。当時はまだ映画の勃興期でもあり、モノクロのスタンダードサイズではあるが、第３回アカデミー賞の最優秀作品賞と最優秀監督賞を受賞した秀作である。主人公ポールはフランスと戦うドイツ兵であるがアメリカ人俳優である。アメリカユニヴァーサル作品であるため、会話も英語でありちょっと違和感はある。原作者のレマルクは当然ドイツ人であるが、ドイツではなくアメリカがこの映画を作った、ということが、当時のアメリカの自由、懐の広さを感じさせてくれる。

冒頭に「この物語は告訴でも告白でも冒険物語でもない。… 戦争により破壊された若者たちの話である。」という説明が流れる。戦争そのものがテーマであることは間違いないのであるが、そのことだけではなく、その奥をしっかりと見て欲しい、という原作者や監督の想いが感じられる。その説明通り、戦争の原因が何であったのか、戦争はどちらが優勢で推移したのか、といった内容は全く描かれていない。単に、戦場の実態が淡々と映されていくだけである。まるでドキュメンタリー映画のようでもある。

最初の場面は活気のあるドイツの街である。マーチが鳴り響き、これから戦争だ、と興奮に沸いている。ある学校では、髭を蓄えた先生が大声で生徒たちを鼓舞している。「国を滅びるに任せるというのか」「祖国が君たちを呼んでいるのだ」「祖国に捧げる死は甘美である」と。実際の戦場を知らない、そして正義感に燃えている若者たちにとっては間違いなく劇薬の言葉である。教師の言葉は、全く白紙のキャンバスのような若い心には抵抗なく染み込んでいく。小学校低学年の孫と話していた時に「じいちゃん、それは違う。先生がこう言ってたもん。」と言っていたことを思い出す。素直といえば聞こえはいいが、子供にとっては、先生の言うことは全て正しいのである。言い方を変えれば教師の責任はそれほど重大なのである。太平洋戦争に関しても同様の話はよく聞く。戦時中の小学生や中学生はほとんどが軍国少年少女だったらしい。10年以上前に亡くなったが、作家の城山三郎が述懐している。軍人になって祖国のために働くのだ、と心からそう思ったという。我々と同じ技術系学校の学生であったため徴兵猶予があったが、それを無視して親の反対を押し切ってまで大日本帝国海軍に志願したのである。ところが軍の実態は想像したものとは全く正反対の堕落したものであり大きな失望を味わう。まさに、この映画を地で行く強烈な経験だったらしい。そのいきさつは小説「大義の末」や「一歩の距離」に実に生々しく描かれている。彼は経済小説作家として有名なのだが、隠れたこの秀作にもぜひ目を通してほしい。終戦時に「私の人生は終わってしまった」と独白するほど失望した城山は、その後国家からの勲章を拒否するほどの自尊心を持って執筆活動を続けるのである。葬儀には中曽根康弘や小泉純一郎ら歴代首相もかけつけたという。しかし、彼らは城山の本当の想いを理解していたのであろうか。映画の話に戻そう。当時の教師はなぜ、教え子が志願するように仕向けたのか。おそらく実際の戦争の現場は知らないのだろう。知っていて焚きつけるのなら、もう犯罪者というか殺人の確信犯と変わらない。教師も正義感旺盛であったのだろうが、戦場に兵士を送ることが正しい自分の職責と認識していたのであろうか。いや、そうではあるまい。知識階級である教師が戦争の実態を知らないはずがない。自分が戦場に行く立場になってみれば、間違っていることが容易に理解できるはずである。公務員でもあり、当時の世間の風潮に逆らってまで自分の本心を出すことができなかったのかもしれない。親もいれば家族もいる。とにかく生活が大事である。良いか悪いかは別として、そうしなければならなかった、というのが本心だったかも知れない。

居酒屋で老人たちがフランスをいかに攻めるか、と口角泡を飛ばして論じ合っていたが、彼らも善良な市民なのだろう。何がそうさせているのか？ ふっと思った。そうだ、サッカーの試合について論じているのとそっくりなのだ。サッカーも戦争も「戦う」ということは同じだが、彼らは、戦争は人殺しという事実を棚に上げて、浅はかな感情で、いかにも正義ぶって、どうやったら勝てるか、と持論を叫んでいるだけなのである。しかし、それを言うなら、「自分」が戦地に行け。「言うだけ」の年寄りほど面倒くさいものはない。さらには、同調圧力という世間の束縛もある。慎重な意見を言うと、たちまち「非国民」と罵倒されてしまう。事実、兵隊に志願するのに慎重な学生もいたのであるが、結局、仲間に強引に誘われてしまう。つまり、この映画は開始早々10分程度でテーマは言いつくされてしまう。このあとは予想通りの展開である。聞いたことと見ることとは大違い。サッカー試合のように華々しく戦うのではなく、せまい塹壕の中でひたすら待機し、ひと晩中爆撃の恐怖にさらされ続ける。食料はない。突撃命令が下ると間違いなく旧友たちが傷つき死んでいく。後悔してももう遅い。まさに地獄である。

このシチュエーションは珍しいものではない。日本の太平洋戦争映画でも戦争の悲惨さを描いたものはいくつもある。ただ、日本の映画の場合は、その悲惨さに軍隊内部の上下関係による「制裁」とか「いじめ」が加わって、さらに陰湿さが増す話が多いような気がする。ただしこの映画では、仲間内のいさかいはほとんどない。「なぜ俺たちは戦わなくてはならないのか」と理不尽な思いを抱きながらも、基本的には仲間は協力しあっている。その分、戦争の悲惨さに個人の責任は全くなく、国家や社会が責任を負うべきと、より明確に訴えているように思える。繰り返しになるが、戦争末期には日本でも若者の志願兵が強制的に募集されたという。今で言う中学生レベルまで及んだらしい。お国のためと言って、各地域に人数が割り当てられた、とも言われている。さらには、それまで召集免除されていた大学生まで強制的に戦地に送られてしまった。志願する、しないの判断さえ省略されてしまったのだ。そして、最後には自爆強要までされてしまう。これを気狂い沙汰と言わずなんと言おうか。将来の日本を背負って立つ優秀な多くの若者が消えてしまった。映画の本筋からは離れてしまっ

たが、次々と戦争の理不尽さが思い出されてくる。

果たして戦争はなくすことができるのか、という大命題にどうしても向き合わざるを得ない。戦争は絶対になくさなくてはいけない、人類はそのことを目標にしなければならない、という考え方がある。一方、そんな理想を叫んでいても無駄、現実に暴力を仕掛けてくる侵略者は必ず一定数いるから、少なくとも自分や自分の家族、ひいては国民全体を守るためには軍隊はぜひ必要、という意見も正論と思える。確かに、昔から戦争はなくなったことがない。そして、常に勝者が正義となって世の中は進んできた。２、３年前にこの欄で「七人の侍」を取り上げたことがあるが、野武士の襲撃から身を守るためには軍隊を組織し戦うしか道はなかったのである。そんな状況の中で「戦争は悪だから軍備は縮小しましょう」と言ったってまさに絵空事かもしれない。現実に、今現在も中東地域では戦争が行われ多くの人が死んでいるのである。しかし、しかしである。人類は戦争をなくす努力をずっと続けてきたことも間違いのない事実である。未開地に侵入し現地人を虐殺したり、粛清という名で大量の人間を殺戮することは、今後ほぼなくなるのではないか（もちろん反論はあるだろうが）。例えばIS等の地域紛争の原因のひとつは「貧困」だろう。民族間、宗教間の問題もあると思うが、生活できない状況だから、なんとしても生きなければならない、ということ以外は考える余裕がない。正常な判断ができなくなり、生き延びるために戦いへと突進してしまう。そうであれば、世界的な福祉政策を徹底して進めることも解決策の一つではなかろうか。一方、大国同士の喧嘩は外交で解決しなければならない。もちろん、考えが甘い、と言われるのは承知の上である。アメリカ大統領選挙が終わり、やっともとの民主主義国家アメリカが戻りそうな機運もでてきた。先日、リニューアルされた広島原爆資料館にも行って、平和祈念の思いも新たにした。そして、本当に世界から戦争をなくそう、と懸命に働いている政治家やボランティアの人達もたくさんいるのである。理想かもしれないが、戦争廃絶の希望は持ち続けたい。

完全に道がそれてしまった。元に戻そう。主人公のポールは苦しい思いを続けながらも生き延びるが、ついに負傷し入院となる。入院すれば戦場から離れられるし、少なくとも戦死することはない。進んで負傷する兵士が出てきても不思議ではない。まさにブラックユーモアであるが、正常に判断すれば、それは十分にありえること、とも思える。もちろんポールはそんな行動は取らないのだが、全快後数日の休暇を得て故郷に帰る。志願し出征してから数年が経っていたのだが、母校ではあの先生が、まさにあの時と同じように、生徒たちに志願を勧めていたのである。ポールは事実を話す。戦場とは決してみんなが思うような格好いいところではない、と冷静に訴える。しかし、その先生は、そんな事実を聞こうともせず、「経験者として志願を促せ」と執拗に依頼する。ここが終盤の山場とも言えるかも知れない。なんと生徒たちはポールを卑怯者呼ばわりするのである。祖国愛とかいう幻想を叩き込まれた生徒たちは、もうその高揚感を抑えることはできない。映画は振り出しに戻ってしまった。

部隊に戻らなければならないポールは心配する家族にこう伝える。「今度は食料班だから直接の戦闘はない、安心して」と。そしてかつての自分の部屋に入る。そこには子供の頃収集したのであろう蝶の標本箱があった。それを手に取って懐かしそうに眺める。蝶の好きなごく普通の少年だったのだろう。そしてこの情景がちょっとした伏線になっている。部隊に復帰し塹壕で見張り番をしているポールの近くに蝶が飛んで来て止まる。昔の思い出がよみがえったのであろうか、微笑みながらその蝶に静かに手を伸ばそうとする。小さな覗き窓からは手が届かない。土嚢の上に体を出して蝶に触れようとした、その一瞬気を抜いた時に敵に撃たれてしまう。撃たれた姿はない。蝶に伸ばしていた手が引きつった後ピタリと止まる。それぞれの兵士には家族があり、そこには数知れぬ営みや物語がある。しかし、その兵士がひとり死んだところで、戦場にはなんの変化も起こらない。それがタイトルの意味である。最後に大きな墓場が上空から映されるが、そこをかつての級友たちが並んで行進していく姿がオーバーラップして映し出される。奥に向かって黙って歩いて行くのだが、みんな個別に途中で振り返るのである。あたかも観客に「さようなら」と言うように。個人が全く無視されるのが戦争である、ということを切々と訴えかけて映画は終わる。静かな余韻を残す有名なラストシーンであるが、僕が監督なら、最後の蝶は絶対にパートカラーで映したい（当時は、カラーは無理だったか）。なお、舞台はドイツ軍であり上映当時の評価も高かったのだが、第２次世界大戦前からヒトラー政権はこの映画の上映を禁止したようである。皮肉にもヒトラーユーゲントという組織が完全にこの映画をなぞってしまった。

よろず伝言板

「同窓生の声」募集

本校も独立行政法人となり、現在、様々な対策を取って教職員一丸となっております。しかし、教職員の知恵だけでは不十分な点もあろうかと存じます。本校発展のために同窓生の皆様のお知恵も拝借することができましたらこれほどありがたいことはありません。『悠久』や本校のホームページ等をご覧になってお気づきの点がありましたら何なりと左記連絡先までご連絡いただけましたら幸いです。高い見地からの皆様のご意見をぜひお寄せください。同窓生の皆様のご協力をお願い申し上げます。

【連絡先】 阿南高専学生課
阿南市見能林町青木２６５
ＴＥＬ 0884-23-7132
ＦＡＸ 0884-22-4232
MAIL dosokai@anan-nct.ac.jp

「喜びも悲しみも幾年月」 1957年　木下恵介監督
佐田啓二　高峰秀子

同じ木下恵介監督の「二十四の瞳」と、この作品のどちらを取り上げようか、と迷った。「西部戦線異状なし」は反戦をテーマにした作品であり、同様に反戦をテーマにした「二十四の瞳」が適当かな、とも思った。ただ、あまりにも有名で、いまさら…、という思いもあり、この作品を選んだ。しかし、改めて鑑賞してみると、間違いなくこの作品も立派な反戦映画であることを再認識した。実直な灯台守夫婦の喜びと悲しみにあふれた半生をテーマにした感動大作ではあるが、反戦思想は最初からずっと芯棒のように貫かれている。今回久しぶりに鑑賞したが、良い映画は何度見ても良いものである。そして、いつも新しい発見がある。

この映画には特別な思い入れがある。公開された1957年、私は９歳で確か小学校３年か４年だった。当時は、映画は最大の娯楽であり、数ヶ月に１回くらい巡回映画がやってきて、学校の講堂で見た記憶がある。ただ、この映画は講堂ではなく、学校の授業の一環として、生徒全員が市内の映画館に見に行ったのである（あの時代は鳴門市の繁華街には５軒の映画館があり、全て歩いて行くことができた）。ガキどもがベンチ椅子に並んで座って映画を見たのだが、当時流行っていた若山彰が歌っていた主題歌が流れるたびに、みんなで肩を組んで体を揺すっていた。主人公夫婦が転勤するたびに画面いっぱいに日本地図が現れ、次の任地の灯台の場所を示すであるが、そのバックミュージックとしてその曲が流れるのである。今聞いても感動的な好きな歌である。映画の内容はほとんど記憶に残らなかったように思う。ただ、映画が始まってまもなく灯台にお化けが出たことと、映画の前半はお茶を飲んでいる場面がやたら多く、映画を見ながらやけに喉が渇いていたことだけを未だに鮮明に覚えている。会社に入って10年くらい経った頃だろうか。やっと「カラオケ」が流行り始めた頃である。当時は曲だけ入ったレコードをリクエストの順番に担当者がプレーヤーにかけ、客は分厚い歌詞の本を広げてマイクの前で歌う、というスタイルだった。当然、その頃は歌謡曲の全盛期で、歌いたいヒット曲はいっぱいあったが、私のカラオケデビューは、まさにこの懐かしい歌であった。

冒頭から灯台の大きなレンズの大写しである。「フレネルレンズ」という言葉を聞いたことはあるだろうか。太陽光線のような平行光線を凸レンズに通すと、その光は焦点に収束する。つまり、反対に、光源を焦点に置き凸レンズを通すと、その光は拡散せず平行線として遠くまで飛ぶ。これが灯台の機能である。そしてこの性質はレンズ表面の形状のみに影響される。したがってレンズの中央部に行くほど分厚くなる中身を肉抜きしても性質は変わらない。直径が２ｍを超えるような大きなレンズではかなりの軽量化を図れる。レンズは円形であるから、肉抜きは同心円状におこなわれ、その結果、その加工跡が美しい同心円として残る。これがフレネルレンズである。同心円自体は決して交わることはないが、灯りが点灯し複数の透明レンズが回転すると、それぞれの同心円が重なって複雑な幾何学模様を作り出す。まさに、喜びも悲しみもいっぱいの人生そのもの。ドンピシャリのスタートである。

最初の勤務地と思われる三浦半島観音崎灯台から物語が始まる。昭和７年、上海事変が勃発し戦争が本格化していく頃である。父親が亡くなって信州に帰ったのだが、嫁さんを連れて帰ってくる。１回の見合いですぐ結婚を決断し、赴任地に戻った、という。まだ下積みの灯台守の夫が佐田啓二、その妻が高峰秀子という絶世の美男美女の組み合わせであり（映画であるから当然なのだが）、そんなに簡単に結婚することがありうるのか、と気になって仕方がない。ましてや、お互いが手を取り合って「これから一生はなれない。どんなことがあっても力を合わせて共に生きていこう。」と誓い合う、まるで教科書のような模範家族である。夫婦の愛情物語であるわけだから、そのなれそめは非常に重要なポイントのはずである。それを省いてしまうことはありえないと思うのだが…。さらに、この映画には悪人が一人も出てこない。仕事仲間もすべて考えられないほど純朴で善良な人たちばかりである。砂糖の中に少しでも塩が入る事によって味が引きしまるが、この映画は、少なくとも人間関係に関しては砂糖ばかりが山盛りである。まあ、しかし、これが木下ワールドなのかもしれない。さらに、灯台守という仕事がいかに大変な仕事か、ということも語られる。観音崎灯台には、ある職員の妻で精神病を患っている人も同居していた。冒頭で、お化けが出たことが記憶に残っている、と書いたが、この婦人のことである。灯台は人里離れた辺ぴな場所とか離れ小島にあるため、子供の学校のことなど考えると単身赴任にならざるを得ない。いっしょに暮らすにしても他人の家族と同居だし、プライバシーも保てない。そんな抑圧された生活が原因らしい。先行き苦闘いっぱいなのだが、さあ、２人の船出が始まった。

年月の経過とともに全国の灯台を転々とし、子供も生まれ成長していく。それぞれの地でまさに喜びや悲しみが繰り返されるのだが、その詳細は省略する。任地となった灯台を順番に示しておく。ちょっと不思議に感じたのだが、

移動の景色がほとんど船なのである。北海道から長崎までほぼ日本の端から端まで移動するのも船である。灯台守は列車を使わなかったのか？？？

1　昭和 7 年　神奈川　県観音崎灯台
2　昭和 8 年　北海道　石狩灯台
3　昭和12年　長崎県五島列島　女島灯台（本州最西端灯台）
4　昭和16年　新潟県佐渡島　弾崎灯台
5　昭和20年　静岡県　御前崎灯台
6　昭和25年　三重県　安乗崎灯台
7　昭和29年　香川県　男木島灯台
8　昭和30年　静岡県　御前崎灯台（再任）

木下ワールドでは悪人がほとんど登場しない、と書いたが、それは周りの人達の事であって、戦争という悪については静かだがしっかりと盛り込まれている。灯台は港湾のインフラの一部でもあり、当然敵の攻撃目標になる。戦争中に太平洋側の灯台が空襲を受け、５人の灯台職員が殉職している。個別の灯台ごとに攻撃される様子を空中から撮影し、ほとんど知られていないだろう事実を改めて訴えている。さらに、高峰秀子演じる妻に何度も「戦争なんてなぜやるのか」「早くやめればいい」と言わせている。ところが、佐田啓二演じる夫は、公務員であり大した考えもないのだろうが、「そんなこと言うんじゃない、国民の責任だ。お国のためだ。」と、取り付くしまもない。ここでフッと気づいた。彼は戦争の実態を知らない。まさに先に書いた「西部戦線異状なし」の映画の中の志願を煽る教師や戦争をサッカーのように考えている市民と全く同じではないか、と。日本だって、おそらく似たような考えの人は相当いたのだろう。主人公の夫は全く普通の人として描かれている。灯台守という仕事には心から誇りを持っており、召集される兵隊から「兵役逃れで灯台守しているのか」と部下が言われたことに腹を立て殴り込みに行くのだが、逆に酒を勧められて腑抜けになってしまう。灯台記念日に台長代理で祝辞を述べるのだが、覚えられなくて懸命に練習する。息子が死ぬ直前になっても仕事を優先し会いにも行かない。どこにでもいるごく普通の昭和の頑固おやじである。そこに、控えめではあるが、妻の本音が割って入る。「誰のための戦争なの？」「子供が一番大切でしょ」と。まだ、妻は夫に従うもの、と言われていた時代である。しかし、夫だって本音ではそう思っているのだ。妻の反論に言い返せる訳がない。ただ聞き流すしかない。もうずっと昔のことだが、就職活動の面接にあたっては学校の先生方から様々なアドバイスがあった。「学生運動に興味はなかった」「支持政党は自民党である」「民青なんて言葉は聞いたこともない」と答えなさい、と。もちろん就職活動をスムーズに進めるため、学生を思っての助言に違いないのだが、当時の学生運動が社会現象にもなっていた時代に、自分の意見さえ持っていない学生が優秀と思われるのか？と、はなはだ疑問に思ったものである。そうは言いながら、実は父親も全く同じことを言った。当時はこういう状態が普通の社会だった。

国土防衛戦のための竹槍訓練の様子がこの映画でも取り上げられていた。銃を持って乗り込んでくるアメリカ兵に対して、竹槍を持った女性が防戦できる、と思っていた人が果たして何人いたのだろうか。おそらく誰ひとりとしてそう思った人はいないだろう。でも、堂々とその訓練は行われたようだ。裸の王様に対して、その洋服は実に良く似合っています、というアンデルセンの童話とそっくりである。ようするに、誰も事実を話そうとしないのである。いや、権力には歯向かえないので、話せない、のである。でも、それは何も昔の話ではない。国のリーダーが、誰が考えてもおかしなことをしているのに、それに仕える周りの政治家の大多数や官僚たちが誰ひとりとしてそれを正そうとしない。本質的には竹槍訓練と同じことが、相も変わらず堂々と行われているのである。

最後のクライマックスは、娘が結婚しその夫とともにエジプトのカイロに赴任する場面である。当時は客船で行くのだが、横浜から南に向かうため御前崎灯台の沖を通過する。灯台からその船が見えたとき見送りの霧笛を鳴らす。一方、船の方からも返答の霧笛が返される。霧笛というのは本当に郷愁というか哀愁を誘うものである。娘が結婚して家を出て行くのは人生の一区切りである。今までの喜びも悲しみも自然に沸き出てくるだろう。僕自身（いつの間にか正真正銘の72歳のジイさんだ）にとっても、彼ら夫婦とは全く違う人生ではあるけれども、数多くの喜びや悲しみがあった。そんな思いが重なって、自然と涙が溢れてくる。霧笛とともに主題歌が始まり感動的なエンディングとなるのだが、ラストシーンは、どこの灯台かわからないが新たな任地の灯台に向かう場面である。映画の始まりと全く同じシチュエーションである。年齢だけは違う。灯台の下で高峰秀子は夫の前でくるりと１回転する。何気ない仕草だが、新しい灯台に入る前に服装の乱れをチェックしてもらったのか。遠景のショットだから会話も聞こえないが、忘れがたい印象深いシーンである。娘も結婚して外国へ行ってしまった。また２人だけの人生が始まる。気持ちは昔の若い時に帰ったわ、と言っている声が聞こえた気がした。

映画の中でも語られるのだが、全国に灯台は750ヶ所もあったらしい。海に囲まれた日本にとって海の安全航行は非常に重要であり、明治以降急速に洋式灯台が作られたという。ところが、どうしてもその場所は離れ小島や半島の先にあり、そこで生活する灯台守は必然的に不便な生活を強いられる。近代化は急速に進み、世界に冠たる成長を成し遂げてきた日本ではあるが（今はかなり落ち込んでいるが）、その影にはこうした人知れず苦労したたくさんの人々がいたのであろう。そして、おそらくほとんどの人が自分の仕事に誇りを持って、希望を持って、懸命に働いたのだろう。「灯台」は憧れの象徴である。無条件に好きである。真っ暗な闇の中でも不動の光を放ち、進むべき方向をしっかりと導く。人生の一里塚のようにも思える。何も言わず、ひっそりと岸壁に建つ姿には崇高ささえ感じる。退職後まもなくして、かねてから心に秘めていたプロジェクトである日本一周自転車旅行を実行したが、有名な灯台にはできるだけ立ち寄ることにした。島には渡らなかったが、この映画の舞台になった観音崎灯台、御前崎灯台、安乗崎灯台、そして爆撃による殉職者が出た青森県尻屋崎灯台、福島県塩屋崎灯台、千葉県犬吠崎灯台にも立ち寄った。見覚えのある景色は、より一層この映画を身近に感じさせてくれる。しかし、考えてみれば灯台はもう完全に過去の遺物である。GPSなる新技術で簡単に位置情報を得られるのだから、人件費はじめ多大のコストがかかる灯台は当然消える運命である。内部が公開され、登れる灯台は非常に少なく、放置されたままのように見受けられる灯台も多かった。それにしても、灯台のある景色は実に美しく堂々として本当に絵になる。産業文化遺産として今後もずっと残してほしいものである。

赤い手帖（30）

昭和45年度電気　森　田　虔　児

無職になってから何年も経った。平日の朝は、車で家内を勤務先に送った後、風呂などの掃除当番をしている。時には洗濯干しも頼まれるが、まだ森や林の多い郊外のため、花粉症対策として、晴れた日でも全館空調の室内（納戸や広縁）に干すよう言われている。我が家の北側だけに隣家があり、陽射しに恵まれた日には、ささやかな家事の勢い付けのため、多少音量を上げてCDを聴くことがある。曲はヨハン・シュトラウス２世の「ウィーンの森の物語」や「美しく青きドナウ」の類であるが、一連の作業終了後は、コーヒーを飲みながら、ベートーヴェンの「田園」を聴いている。その第２楽章に差し掛かる辺りでは、一層癒される気分になる。このふたりの音楽家の生存時期は、それぞれ1825～1899年及び1770～1827年であるが、我が国では江戸時代後半の頃に相当しており、欧州全域において、かかる音楽家の活躍を支援する社会層が存在していたという点にも、今更ながら感心する。

新型コロナウイルス（Covid-19）の世界的な蔓延で、人間ドックの受診はおろか、少々の事では病院に掛かり辛くなり、季節の変わり目などの風邪も迂闊にひけなくなった。昨年の後半、兄夫婦がダイヤモンドプリンセス号で中国・東南アジア方面のクルーズを楽しんだと聞き、年を取ってからの船旅も羨ましいと思い、近いうちに当方も実行したいと、その頃は乗船計画を本気で立てそうになっていた。しかし、感染拡大が深刻となった今春以降の国内は、当時とは別世界になってしまった。昨年のドック受診後の精密検査の際、半年後の今年４月に肺の再（追跡）検査を予約していたのであるが、新型コロナの陽性患者が出入りする可能性の高いCT検査室の予約を、念のためキャンセル（夏以降に延期）した。

今年の５月には、徳島での母の三回忌の予定があったが、東京・神奈川方面からの帰省に躊躇しているうち、小生より５歳以上若い菩提寺の住職が急逝してしまった。元々そのお寺に養子で入られた住職だそうで、代わりのお坊さんの速やかな手配も無理のようであり、徳島市内在住の兄の判断で、今年の法事を見合せることにした。

一方家内の実家では、「コロナ禍」で、お盆の「棚経回り」を今年は中止したい旨、鎌倉の菩提寺から通知があった。後日その材木座のお寺に墓参りに行った際、外出のため偶々その日不在であった住職の読経をお願いして、お布施を預けて帰ってきた。このお寺は遊行寺系（時宗）で、境内には三浦大介義明一族の墓所がある。その裏山を挟んだ反対側に長勝寺というお寺があり、由比ガ浜方面を見下ろす裏山の頂上に、赤木圭一郎（トニー）の記念碑が建てられている。昨年のある日、凡そ50年ぶりにその場所をふらりと訪ねたところ、小生より10歳くらい年長に見える老夫婦が、その石碑を探し当て感激に浸っているのに出逢った。何でも神戸方面から来て、静岡経由で鎌倉に立ち寄った風の話であった。小生は、熱海への温泉旅行の序でに鎌倉にも寄ったものと推測したが、実は富士宮市に圭一郎の墓があることに後日気付き、かの老夫婦が、「圭一郎の史跡を巡る旅」をされていた事を理解した。そして、このところ流行りの「ドラマ・アニメの聖地巡礼」をふと想った。

「ウィズコロナ」の生活で、町内会の諸行事（祭りや盆踊り、駅伝大会、敬老会、清掃活動など）がすべて中止され、これらの原資となる町内会費の集金も、当面取り止めとなった。様々な自粛の中、９月末に孫二人を歯医者に連れていくため電車に乗ろうとしたところ、残額が十分有ったPASMOカードが、駅の自動改札機でリジェクトされた。隣の改札機で試しても同じなので係員に尋ねたところ、「半年以上不使用のカードをチェックアウトする機能がある」とのことで、リセットして貰った。そして、電車やバスなどを長期間利用していない生活が、このところ続いていたことに改めて気付いた。今年は、正月三が日に家族６人で品川プリンスホテルに泊まり、高輪神社や泉岳寺にお参りをして、開業前の高輪ゲートウェイ駅も見物した。またお台場のフジテレビやその周辺で遊び、夜はホテルのカラオケルームで過ごした。その間、何度か電車に乗り、都内をバスで移動したのが、振り返ってみれば、最後にPASMOを使った実績である。その頃は、複数のレストランや、観光客で密集した土産物屋などにも、何と「ノーマスク」で普通に入っていた訳である。

３月に入ると、孫たちのお稽古事（スイミング、サッカー、ピアノなど）が全て中止となった。幼稚園の新学期は、ようやく６月に始まった。そのような生活の中で、幼稚園の年中組に通っている孫がカブト虫を飼いたいと希望したので、７月に雌雄の二匹をケージを分けて飼い始めた。ケージの床に潜って、ほとんど姿を見せなかったメスは、一か月足らずで動かなくなったが、オスのほうは10月の中旬まで活発に動いて生き延びた。孫自身や、虫の苦手なママがそのカブト虫の面倒を看た訳でなく、オスの長生きは偏に、家内がこまめにケージの敷物交換・清掃や、餌（ゼリー）と水分補給（霧吹き）の世話をし続けたお陰ではある。６月の初めに、小生が一番小さな植木鉢に枇杷の種を埋めておいたところ、いつの間にか４本の苗木が育っていた。園芸のスキルが有るわけではないが、試みに昨日（11/8）の午前中の孫達がお出掛けの時間帯に、大振りの植木鉢に移植してみた。もし幸い枯れずに育てば、次は庭の一角に苗を植え替えてみるつもりである。

海外旅行が当面困難な状況のなか、７月に車で熱海の伊豆山に家族６人で旅行した。部屋にも露天風呂があり、孫達が気に入った宿だったので、「Go Toトラベル」の特典を活用し、10月末にも同じホテルに泊まった。７月時点では宿泊客もわずかで、大浴場・露天風呂（なお、サウナは営業休止中）とも殆ど「貸し切り」状態であったが、今回は、利用者が少し増えていた。二度目の時は天候にも恵まれ、個室の露天風呂から観える満月（ブルームーン）が家族全員に好評だった。旅行の初日には、小田原の「石垣山一夜城」跡地を訪ね、翌日は伊東の「伊豆ぐらんぱる公園」で遊んだ。二人の孫は、レストランの食事や、遊具・乗り物をはじめ、園内の農場・広場などを堪能した様子だった。また熱海・伊豆方面の行楽客は、「Go Toキャンペーン」で相当回復しているように見えた。

戦後２回目となる東京オリンピック・パラリンピックが、今年は中止となった。新国立競技場の設計コンペや大会エンブレムの混乱に加え、盛夏でのマラソン競技強行など課題山積の出だしで始まった。そして「東日本大震災からの復興の証としての開催」を忘れたかの如く、「パンデミックに打ち勝った証として来年開催」と唱え始める、推進派の政治家なども出現している。前回（1964年）のオリンピックでは、日本国内の聖火リレーに先立ち、ギリシャから東京に至る聖火リレーコースをなぞる、「地上最大のクイズ」がテレビで放送されていた。放送開始当時はまだ小学生であった小生は、テヘラン（イラン）やイスタンブール（トルコ）をはじめ、ベイルート（レバノン）、ラホール（パキスタン）などの地名を、あくまで牧歌的な印象で記憶していた。しかし現在識るところでは、中東やアフリカ北東部でのアラブ諸国や周辺国との反目・接近の緊張関係は複雑で、理解が困難な面も多い。これまで、イラクをはじめイスラエル・パレスチナ等に介入した経緯があって、世界の警察官としての立場に矜持がある筈のアメリカ国内において「米国第一主義の大統領」の時代が何年も続くと、当該地域の混迷に拍車がかかる予感がする。

今年の秋は運転免許証の更新期限となっていたが、事前に「高齢者講習」の受講が必要との通知が来た。その受講は半年前から可能であったので、夏前に予約して受講し「終了証明書」をゲットした。技能講習では、実に50年ぶりの「Ｓ字・クランク」を脱輪せずに無事通過できた。高齢者向け特有の項目としてか、縁石乗り上げ・急停止対応というのもあった。実生活では、年間で平均１万キロ以上を走行している為か、思いもよらず教習所の講師が安全運転だと褒めて呉れた。なお、75歳以降の更新時には「高齢者講習」に先立つ「認知機能検査」が義務付けられているらしい。

昨年の10月に、2019年版の同窓会名簿が届いた。地元（徳島県近辺）の居住者が思いのほか多い印象を持った。新産業都市に貢献する中核技術者の育成という類の、開学時の理念があったので、これに適っているのかも知れない。一方、創立50年を超えたこともあり、物故者が結構目立つようになった。

4Mの井上孝君は、元学生会長であり、寮生活中の会話は時々あったが、卒業以来、生前に一度も逢った記憶がなく、晩年に例え遭遇しても、お互いの認識ができなかったのではないかと思う。彼は若い時分に無職の期間があって、何でも電気工学科卒の同級生の社員寮に居候をしていたような証言もある。住宅関連の会社の役員として現役で亡くなったそうで、同期生では比較的近くに住んでいることもあり、彼の葬儀に参列させて貰った。同じく4Mの生田守一君とは、在学中に殆ど面識がなかったが、関東地区の同窓会などで頻繁に顔を合わせる機会があり、弟さんが経営する新宿の飲食店にも連れて行って呉れた。小生は一人で帰省する度、駅前の複数のホテルを利用していたが、徳島で彼に遭遇した際に自身の「定宿」を教えて呉れたので、以来その宿泊先を小生も専ら活用するようになった。この生田君も勤続中に現役で亡くなったようである。

4Eでは、関西にお宅のある吉田英行君が早世された。首都圏ほかでの単身赴任も数回に亘るので、時間を見つけては日本百名山に登っていたことが、年賀状に毎度記されていた。あと僅かで全山踏破というところで、残念ながら病床に伏すこととなった。その際小生にも、数週間に及ぶ直近の治療計画を連絡して呉れた。小生はあまり深刻に受け止めず、「仕事を休んでいる間に、百名山の登頂記録を、途中までで良いから同総会誌にレポートしたらどうか」と、直ぐに返信しておいた。ところが、奥さんから後日頂戴した便りでは、その治療開始（初回の手術）直後に急逝された様子であった。通学生であった彼は、人付き合いの悪かった小生に、何かと声を掛けてくれた同級生のひとりで、学生寮の２人部屋の相方（実は、新入学生の全寮制が開始された時期に、高校中退後に入学し、他の寮生と馴染まなかった学生を、一時だけ預かり同居していた）が別室に移り、丁度一人暮らしになっていた小生の部屋に泊まりに来たことがあった。晩と朝の寮飯を共に食い、寮風呂にも一緒に入って帰った想い出がある。彼は、単身赴任の時期に、関東支部の同窓会に顔を出すことも度々あったようだ。小生は40歳前後まで、社内で結構ハードに仕事していた（それ以降は、所謂コストセンターでの「月給泥棒（ブルシット・ジョブ？）」に甘んじていた）のであるが、丁度そんな時期に吉田君から「会わないか」と珍しくお誘いの電話があった。小生は当時、土日も出社するような状況下にあり、簡単に断ってしまったのであるが、今思えば単身赴任中の彼の心境に対応出来なかった点は悔やまれる。以上の相前後して逝去された諸兄については、小生は関病中の見舞いに参じた訳でもなく、何れもお元気なころの面影しか脳裏にないため、亡くなられたことがいまだ信じ難い思いで居る。

たそがれびとの子守唄

昭和45年度機械

久 米 恵 二

「シンクロ」

もう何十年も前から嫁に「用を足すときは便座に座るように」と言われ続けて来た。大はともかく、小の方は立ったままするのが自然だし、なんと言っても、座ってするのと、立ってするのとでは爽快感が全然違う。だから嫁の小言に耳を貸さなかった。しかしながら数年前から便座に座るようになった。嫁の文句に屈したわけではない。原因は私にある。

要はトイレが近くなったということだ。夏はズボンとパンツだけなので問題なく簡単に用を足せる。だが、冬になると私は「パッチ」をはく。ズボン、パッチ、パンツの通用口がシンクロしていればいいのだが、だいたいにおいて通用口がシンクロしていることはほとんどない。私の小さな道具を取り出すのに苦労する。そして焦れば焦るほどいやがって出てこない。その結果チビッてしまうことになる。そうなるとやっぱり子供のように全部降ろしてしまう方が楽である。70才近くなってやっとわかった次第だ。

「ボケ防止」

指を使うとボケ防止に効果があると言われているが、その目的もあって去年５月ヤマハギター教室に通いはじめた。ちょうど一年半になるが効果のほどはまだわからない。「お前は前からボケている」と言う友人もいるが、なんとか続けている。ギターの先生は平成２年生まれで私の子供よりまだ若い。高校時代は１日10時間も練習したと言う。私の年になるとそれは無理だ。10分も弾けば疲れてしまう。だから10分を１日に５、６回繰り返している。

ギター教室には５人の生徒がいる。私も含めて60代が３人（男２、女１）いる。３人とも苦戦している。音楽の速さに指がついていけない。３人がお互いに慰め、励ましあっているので私からギブアップを言い出せない。おまけに紅一点のマドンナ（48才、看護婦さんで美人）に、やめないでくださいと言われたらがんばるしかない。

どのくらい練習が進んだかというと、はじめのうちは小学校の算数の、たし算、ひき算程度だった。（それでも苦労した）一年半経った今は、かけ算、わり算くらいになっているのではないだろうか。阿南高専で学んだ、数学程度までいくには、残り時間が足りないと思う。（もっとも高専での数学を理解していたかどうかは自分でも疑問がある）

「ポパイとオリーブ」

息子が令和元年10月23日、新天皇の「即位の礼」の日に合わせて婚姻届を出した。そして式と披露宴は翌年天皇誕生日の2月23日にすることが決っていた。まだ新型コロナは発生しておらず、まさかこんなことになるとは予想できなかった。感染拡大を防ぐため3月2日から全国の小、中、高校が休校すると決ったときは気をもんだ。まだ「自粛」ということが大きくなっていなかったため、なんとか結婚式にこぎつけた感じだった。

息子は筋肉質ではあるがデブである。酒もタバコものまず、ただただ食べる一方なのでやむを得ない。新婦の方は背も高くスラッとしている。まるでポパイとオリーブのようなカップルだ。息子は新郎新婦入場のとき、目一杯の厚底の靴をはかされ、かろうじて新婦より背が高くなっていたようだ。屋外での結婚式だった。いくら温暖化とは言え、2月の末は寒かった。

「これが青春だ」

息子の結婚式には、高校時代の柔道部の監督、同級生、後輩、10人余りが出席してくれた。10人もいると必ず一人くらいは中畑清のような「お祭り男」がいるものだ。息子と同級で、一番ウマが合っていたというA君がその人だった。披露宴のときは、女性司会者の再三の制止を振り切り、面白いことを連発、会場をずいぶんと盛りあげてくれた。

A君についてはこんな話が残っている。高校時代「脚力を鍛える」と言って、自転車の荷台に、橋の上に置いてある凍結防止剤を積んだ。そしてしばらく走ったが「やっぱりしんどい」と言って道端に棄て、そのまま家に帰ったという。体育会系高校生の青春ドラマに出てくる、典型的な生徒だったようだ。A君は身長180センチ、体重100キロで柔道五段。将来は「ミスター徳島県警」と呼ばれる人になってもらいたい。

「東京支部青梅一泊会」

同級の敏鎌が幹事をして、報告書を投稿したのを読んだ。彼らしい文章だった。なにしろ彼は「謹厳実直」が鎧をつけたような学生だった。（ちょっと誉めすぎたかも）ゴルフと夜の懇親会の写真を付けてくれていたが、はっきりわかるのは畑山と川人だけで他の人はわからず申し訳ない。

今回の記事で懐かしかったのは3期生の赤石さんのことだ。誰にもあてはまることだが、入学して最初に知り合うのは当然同級生である。その次に知り合うのが一級上の先輩である。私が入学して明正寮に入り同室になったのは、3期生の張さん、国金さん、藤井美廣さん、白川さんだった。赤石さんは同室にはならなかったが、室にはよく来ていた。たぶん赤石さんは忘れていると思うが話はよくした。全然先輩面しない、さっぱりした人だった。

話が横に逸れるが覚えていることがふたつある。ひとつは私がヘマをやったとき、張さんに「おまえなぁ、もうちょっと勉強せぇよ」と言われたこと。ふたつめは、白川さんにトイレに連れて行かれ「便器はこうやって磨くんじゃ」と言って、白川さん自らタワシでゴシゴシ磨くところを見せられたことだ。

東京支部の同窓会もいい集りのようだ。近況報告を読むと、みんなそれぞれに楽しかったり、なまなましかったりする。「古希」とか「余生」の文字を見ると、阿南高専の歴史を感じる。私は12月に満70才になる。来年（令和3年）からゴルフでTショットがひとつ前から打てるようになる。年をとっても、いい事もあるようだ。

「With コロナ」の生活

昭和45年度機械　西　條　義　昭

初めての投稿です。卒業して丁度50年。今は鳴門市で内科医院を開業しています。コロナの流行で県外にも行けず、同窓会も開けず、巣ごもり生活が多くなりました。そんな日常です。

「音　楽」

今年のNHK朝の連続ドラマは「エール」。作曲家の古関裕而の生涯を追っている。1964年の東京オリンピックの開会式の選手入場行進時にかかっていた力強くてリズミカルなマーチ。国立競技場第4コーナー付近の入場門から各国の選手団がこの行進曲にのって入場し、真っ赤なブレザーと白いスラックス（女子はスカート）をはいた日本選手団が整然と入場してきたときは興奮が最高潮に達した。子供心に感動したのを覚えている。この曲を作ったのが古関裕而。このドラマで2020年の二回目の東京オリンピックを景気づけしようとしたが、コロナで一年延期になってしまった。

この人の作品は他に、NHKスポーツ番組開始時のマーチ、阪神タイガーズ球団の応援歌「六甲おろし」、巨人軍応援歌の「闘魂こめて」。その他全国高等学校野球選手権大会の「栄冠は君に輝く」や「長崎の鐘」、「鐘の鳴る丘」、「君の名は」など流行歌、ドラマ、映画の主題歌等多数で、5000曲を作曲し、いまだにたくさんの人に感動を与えている。カラオケでもよく歌われている。

音楽は、映像に結び付くとさらに印象深くなる。古い映画でマカロニ・ウエスタンがある。名前のとおり、イタリア製の西部劇でジュリアーノ・ジェンマやクリント・イーストウッドなどの俳優を生み出した。この時の音楽で大ヒットしたのが黒澤明の「用心棒」をリメイクした「荒野の用心棒」、「夕日のガンマン」、「続夕日のガンマン」等。作曲はエンニオ・モリコーネで、これらのシリーズで一躍世界的な作曲家になった。彼は「海の上のピアニスト」、「ニュー・シネマ・パラダイス」等、たくさんのハリウッド映画を手掛けたが、ハリウッドに行かず、英語も話さず、生涯イタリアに住みここで活躍した。

このイタリアに固執しハリウッドと離れていたことで、彼独自の音楽ができた。それが1986年封切の「ミッション（The Mission）」。これは南米パラグアイ付近のパラナ川上流域へキリスト教の布教に来たイエズス会宣教師達の生真面目な生き方や理想と、彼らを派遣した教会や政府の本音である植民地化を図る権力勢力との思惑の中で、彼らが葛藤する姿を描いた映画。当時映画館で観終わったとき、真摯で心に訴えてくるものがあるものの暗い映画を観たと思ったが、音楽はすごく印象に残った。音楽はクラッシック音楽の小曲を使ったものだと思ったが、意外にも作曲はエンニオ・モリコーネ。映画では、スペインのギター、グアラニーのドラムなど様々な要素を取り入れ、異なる文化が絡み合うように曲が進んでゆく。その中で最も印象的な曲が「ガブリエルのオーボエ」で、この曲が今年34年ぶりによみがえり、一躍世界的に有名になる。

3月に入り、イタリアにコロナウイルスが爆発的に流行し、軽症～重症の患者が病院に押しかけ、医療従事者の過労、疲弊状態が世界中に報道され、イタリア、世界中が悲観的で、いつ終わるかわからない暗い未来を予想した。この時、現代のジャンヌダルクを思わせる、彗星のごとく現れたのがイタリア・クレモナ在住の日本人ヴァイオリニスト、横山令奈さん（Lena Yokoyama）。黒いロングヘアーを三つ編みにし真っ赤なロングドレスを着て、地元の病院の屋上で「ガブリエルのオーボエ」をヴァイオリンで演奏する彼女は「天女」、「聖女」のように見えた。その様子が世界中に流れ、大きな感動の渦を巻き起こした。奮闘中の医療従事者への感謝と患者たちが再び音楽を楽しめる日が来るようにと祈りと願いを込めたものであった。この情景と神聖な雰囲気の音楽がぴったりと合って、本当に言いようのない、涙があふれんばかりの感動を受けた。

ストラディバリウスが17～18世紀に活動した街として知られるクレモナは、元々は音楽で知られているが平凡な地方都市。これが一転して感染が急拡大したイタリアの中でも、最前線とされてきた都市。その当時、人口約36万人で感染者は5千人を数え、病院の廊下にまで重症の入院患者が溢れ、多数の死者を出していた。病院では防護服姿の医師や看護師が窓を開けたりベランダに出たり、救急隊員が救急車の中や運搬作業中に一時手を休め、ほんのわずかの時間だが、美しいヴァイオリンの調べに聴き入った様子は感動的であった。この様子は、今でも「YouTube」で観られるし、聴くことができる。お勧めしたい曲である。

また、「ガブリエルのオーボエ」は、後に歌詞が付けられ「ネッラ・ファンタジア」の題名で「サラ・ブライトマン」、「イル・ディーヴォ」らによって歌われている。

「修　理」

3月より、コロナの影響で、講演会、研究会、学会がなくなったら、夜、休日に余裕ができた。

もう20年以上前の話であるが、家内の祖父の遺品に1980年代のステレオセットがあった。重くて大きすぎ、時代的にミニコンポの時代（今はスマホにダウンロード）になっていたので誰も引き取らなくて私がもらった。良い製品だと思ったので音が出る状態にして、ステレオにうるさい人に見てもらったら、「これではこのステレオがかわいそうだ」と言う。CDプレーヤーは、SONY CDP-555ESD。レコードプレーヤーは、SONY TTS-8000。アンプは、SONY TA-F555ESX。スピーカーは、DIATONE DS-2000。これらはすべて「Made in Japan」である。

アドバイスを受けたうえで、まず手を付けたのが、コンセント。こんなものに、まさか極性があるとは思わなかった。電気屋さんにこのコンセントを探してもらって、付け替えてもらった。確かに2つのコンセントの細長い穴は同じ長さでない。これで少し、雑音が軽減する。次にCD～アンプ間のコード。量販店で売っている赤と白のマークの付いている安い物から、大阪のヨドバシカメラで買ってきた一本数千円もする太いものに変えた。次にアンプ～スピーカー間は同様に外側をシールドした同軸ケーブルを買った。両端は自分ではんだ付けし、これで外部よりの雑音の入りにくい、電気抵抗の少ないスピーカーケーブルになった。これで、ボリュームをMaxにしてもブーンという音も聴こえない、雑音のない、澄んだいい音の音楽を楽しめるようになった。

80～90年代の音響機器は、山水、ヤマハ、トリオ、デンオン、ケンウッド、マランツ、ナカミチ、ソニー等音響機器メーカーが性能の高い製品を競争して発売し、団塊世代が引退し暇になった現在、ヴィンテージ物として30年

以上も前の製品がいまだに市場価格が高く、我々世代に強い人気を誇っている。多くが「Made in Japan」で、外国でもマニアに人気がある。

そのCDプレーヤー（SONY CDP-555ESD）で、CD出し入れの開閉がスムーズにいかなくなったのである。まず、鳴門、徳島市内の音響機器を売っている店に持ち込んだが、古くて部品がなく、メーカーがもう修理していないと断わられた。次に、ネットで修理してくれる店を探し、博多市内の店に送り、返ってきたが２～３週間で元に戻ってしまった。４万５千円はぼったくりだ。以来不便に使っていたが今回、自分で修理してみようかと思い立った。「ネット」や「YouTube」に、自分で修理したのがいろいろ出ている。これを見ていたら自分にもできるのでは…と思った。

初めての事なので、いきなりやって、さらに壊してしまってはどうしようもないと考え、徳島市沖浜にある「ハードオフ」に行き、DENON DCD-830と、SONY CDP-997のジャンク品のCDプレーヤー２台を買ってきた。練習用である。２台とも開閉がうまくいかず、音の出ないものであった。家内には「こんなガラクタを二つも買ってきて！!」と言われ、冷たい言葉と視線を浴びることに。

それに打ち勝って、まず、こちらの修理が簡単そうに思ったので、まずDENON（以前は日本コロンビアのデンオンと呼ばれていたが、今はデノン）。電源ボタンを押すと点灯する。次に開閉ボタンを押すとモーター音がしているが開いてこないし、液晶表示にスタンバイの点灯もなし。これで、故障個所の推定が出来た。まず、モーターと開閉を司る歯車を結ぶゴムベルトが緩んで力が伝わっていない可能性。次に開閉トレイが前後に２本の金属棒に乗せられ動くようになっているが、グリス切れで摩擦抵抗が高まって動きにくくなっている可能性。またピックアップ（Pick up）レンズの機能低下もあるかもしれないと推測した。

解体し、緩んだゴムベルト（アマゾンで数百円で大小20種類のゴムベルト購入）を少し短いサイズに取り換え、ネットで買ったホワイトグリスを軸棒に綿棒で塗り付け、Pick upレンズの汚れを綿棒で拭いた。基板、部品全体にエアーダスターを吹いて埃を払い、抜いていたコネクターを元に接続し電源を入れると、液晶表示もスタンバイの状態に。開閉ボタンを押すとゴムベルトで動力が伝わり、勢いよくトレーが開き、CDを入れると、数秒間のターンテーブルの回転音と液晶表示に８と54：45という、８曲入りで総演奏時間54分45秒と正しく表示された。そして、アンプとスピーカーにつなぎ、スタートボタンを押すと、いい音色の音が出た。一日２～３時間、仕事の後で内部構成を確認しながら作業をやったので４～５日かかったが、最初としてはうまくいった。

次に、SONYのCD機器。今度の「症状」は、電源ボタンを押すと同じように点灯する。しかし、開閉ボタンを押してもうんともすんとも反応なし。液晶の表示は点灯するが０の連続。「さあ、どうしょう」と考えてしまった。ネットやYouTubeを観たが具体的な故障個所は推定できなかった。そして、まず開けてみることにした。DENONの修理過程の履歴を参考にした。解体すると、まずゴムベルトのゆるみ。これは簡単に直せた。トレイの開閉のための二本の金属棒にホワイトグリスを綿棒で塗った。ピックアップレンズを綿棒で丁寧に拭き、これで仮組み立てして電源を入れると、開閉はできるようになった。しかし、「no DISK」の液晶表示が。CDを入れると少しターンテーブルの回転音の後に前と同じように「no DISK」の表示をし、再生できない。入れたCDを感知していない状態。Pick upレンズの感度を上げるため、側面にある半固定ボリュームを右回りに10～15度回したが、同じで反応なし。これはPick upレンズを交換しなければと思ったが、自分で直せるか全く想像できなかった。他に不良個所でもあるのではと思い、ネットやYouTubeを観たが全くわからない。

数日放置の後に出した結論が、ピックアップレンズ装置をそっくり交換する事。早速、ネットで、ピックアップレンズ装置の製品番号を入れ、代替品をアマゾンで購入した。製品が届くまでの２週間位、旧装置を本体から外したり、挿入したりしてトレーニングを積んだ。そして、新しいPick up装置を挿入した後、組み立て電源を入れると、「no DISK」の表示でなくスタンバイの表示になり、CDを入れると曲数の数字、総録音時間の数字が正確に表示され、スタートボタンを押すと動き出し、きれいな音が出て、今度も修理に成功した。

さて、本命のCDプレーヤー、SONY CDP-555ESDの修理である。解体すると内部の構造は今までのCDプレーヤーより数段複雑で、部品数が多かったが、DENONの時と同じで、緩んだゴムベルトを少し短いサイズに取り換え、ホワイトグリスを軸棒に綿棒で塗り付け、Pick upレンズの汚れを綿棒で拭いた。エアーダスターで埃を払った。たったこれだけで見事に修理が成功した。これ本体の修理部品代は百円もかからないくらいの故障であった。今も開閉ボタンを押すとスムーズに開閉している。こうして、30年以上前の「ステレオ」のいい音を今だに楽しんでいる。

ちなみに、昔からオーディオ、コンポの性能のわかる有名な曲がある。バッハ（Bach Johann Sebastian：前奏曲とフーガ 変ホ長調 BWV 552：聖アン（J.S.Bachによる「Prelude and Fugue in E flat majjor、BWV 552 “St. Anne”）。音域の広いオルガン曲だ。

実は数年前から、ノートパソコンの修理も行ってきた。折りたたむときにマウスがキーボードの上に残っていたため、たたんだ時に液晶とマウスがぶつかり液晶の一部が欠けたものと、Windows7の古い型で液晶画面が少し見づらくなっていたもの二台。いずれも物置に放置していたが、アマゾンで液晶パネルを買って「YouTube」を見ながら交換して、二台ともうまくレスキュー出来た。起動時に画像がフリーズしたパソコンはハードディスクの故障が原因なので直らなかった。液晶パネルは多方面から見てもきれいに映るものがあり、少し高いがこれがオススメ。ほかにキーボード基板の交換、また、ドライバーの交換もした。交換は比較的簡単にできた。

また、最近は使えなくなって物置に放置されていた３台のマウスも修理した。開けて、接点とレンズを綿棒にアルコールをしみこませて拭き、エアーダスターで細かい埃を吹き飛ばし、ハンダ割れのないのを確認し組み立てたらすべて直った。壊れたと思い、次々新製品を買っていたが簡単に直るので、試みられるのをお勧めします。この種の不良原因は、埃で接触不良、経年でのハンダ割れ、部品の劣化等が考えられる。

修理は人間の病気を見るのとよく似ていると思った。半世紀前に大学予備校に通っていたとき、校長より「医者は人間修理業だよ」と言われたのを思い出した。故障症状を見て、故障個所の故障内容を推定し、場合によっては部品、セットの交換をする外科的治療も。これは、一度成功すると「はまる」と思った。上級の修理になれば、オッシロスコープやテスターを使って、コンデンサー、抵抗器、トランジスターの交換、ハンダのし直し等難易度が高くなる。これもやりたいが、まだ実力がない。

修理することに段々と調子が乗ってきて、動かなくなって家の物置にしまっていたダイソンの、車の掃除に使っていたハンディータイプと、家の掃除に使っていたロングホースの掃除機を分解掃除し、二つとも復活させた。強力な吸引力が復活した。

自慢がてらに家内に話すと、今度は家の「National」のドラム式全自動洗濯機を見てほしいという。最近乾燥がすべてに半乾きになって、修理か、買い替えしなければと考えていたという。今は商標は「Panasonic」なのでこれはかなり古いと思ったが、まあ見てみようと初めて洗濯機を見た。良くできたもので、たくさんのボタンが付き電気回路で複雑に操作されるようになっているが、構造はいたって簡単である。結論は「乾燥フィルター」を通る空気が弱い。その前の管で詰まっていると推測したが、これが見えない。洗濯機正面にあるフィルターの出し入れ口から見ると内部で管と直角に交わっているのである。上の盤の一部が開けられる構造になっていればよくわかるのであるが、全く見えない。曲げられる針金、チューブで探ってみると、先はクッション状のものがあるようであるが、全くわからない。内視鏡カメラならよくわかると思ったが、持ってくるわけにゆかない。歯科、耳鼻科で使う円形の喉頭鏡で覗いたが光が十分に届かず、これもダメ。そこで、気管挿管時に使うために買っていた、先にカメラの付いた喉頭鏡を持ってきた。実によくわかる。綿状のものがぎっしりと管を覆い、完全閉塞寸前である。心カテで言う99％閉塞である。そこで、直ったばかりのダイソンが活躍する。「ダイキ」で２㎝径の透明のチューブを買ってきて、掃除機の吸引器の先につけ、フィルター口から管に入れてスイッチを入れると、大量の綿状のものが吸引でき、湿った塊りがさらに大量に引けた。以後は洗濯物がよく乾き順調である。

初めて、家内のゲテモノ趣味の私を見る目が少し良いほうに変わってきた。

そして、今、更にパワーアップした私は今まで照明の切れるたびに電気屋さんに頼んでいた自宅、医院の蛍光灯、点灯管（グロー球）の交換を引き受け、私の新しいルーチンワークの一つになった。

次なる目標は、まだ、手を付けてなくて動かないメインアンプ、「YAMAHA CA-1000 Ⅲ」の修理。これからの密かな楽しみである。

「マスク」

私は、第45代アメリカ大統領トランプさんと同じで、マスクは着けない主義だった。なぜなら、マスクをつけても５％位しか防御力がないと知らされていたからである。しかし、マスクの効力について少し勉強し、最近は積極的に着けるようになり、患者さんにも勧めている。感染者がマスクをつけると他人に対しての飛沫感染力が50％位減るとの研究結果を知ったからである。唾液にウイルスが存在し、口からばらまかれるからである。これはコロナ、インフルエンザ等あらゆる呼吸器系感染症に通ずる。

政府はマスク着用を薦めている。もし、ほとんどの人が外出、仕事、買い物時等、人との接触時にマスク着用すると日本社会全体の感染は約半分に減る計算になる。安くて、簡単な実行可能な予防策である。元々、日本人はマスク好きで、冬やスギ花粉の季節になると、大勢の人がマスクを着けていたので、欧米人ほどの抵抗感はないようだ。社会全体が外出時マスク着用で、感染力を半分に減らせる社会が創れる。欧米社会に比べて、日本人の感染が少ない一因だろう。

もう一つ、三密（換気の悪い密閉空間、多数が集まる密集場所、間近で会話や発声をする密接場面）に関係するが、挨拶の方法が欧米人と異なる。日本人、アジア人はお辞儀とか、会釈で離れて非接触で挨拶するが、欧米人は大げさ（にみえる）に大きな声を上げて相手に近寄り、抱き合い、左右のほっぺにキスをしている。これは、完全に三密。

また、習慣の違いで、欧米はパーティーが多いらしい。週末はどこかの家でホームパーティーが行われて参加している位だと聞いた。日本ではカラオケ、密集した飲食会でクラスター。欧米ではホームパーティーでクラスターが発生しているから、これらを控えることが三密を避ける予防

方法だろう。期限はわからないが、これらの飛沫、接触感染を防ぐためには、もう少しの期間辛抱が必要だろう。「三密」（SANMITSU・・Keep Distance）は世界的に注目されている。

そして、私は患者さんには、コロナは８割の患者が無症状、軽症だから誰がウイルスを持った保菌者かどうかわからない。目の前の人がコロナ、インフルエンザウイルスを保有しているかどうかわからないので、マスクをしていない人、咳、くしゃみをしている人、大声で話をしている人は、唾液の排出量が多く遠くまで飛び、保菌者だったら大量に排出され、感染するので、このような人には飛沫感染予防の観点から、特に近づかないようにも言っている。

わが国の政府が推奨し、集団的予防になる、三密を避ける、頻回の手洗い、マスク着用、予防接種が、今のところ予防に一番いい。ロック･アウトのような法律による規制、強制でなく、国民の自主規律でこんなことができるわが国の社会は素晴らしいと思う。

コロナ騒動は、悪いことばかりではない。鳴門市内には地場産業の足袋屋さんが数軒あるが、祭り、お茶会、生け花、踊りの催し物の中止で、足袋が全く売れなくなっていた。しかし、細かくて高い縫製技術を持つ鳴門の足袋屋さんが「足づくり」の製品から「手づくり」マスクを製造し、高値でも飛ぶように売れている。そのほかに「スポーツ」用足袋など新たな製品の開発も行っている。こんな逆境の時でも、日本人はプチおしゃれを愉しみ、新たなモノに挑戦している。実に頼もしい、ナイスな国民性だと思う。

「ドイツ橋慕情」

1992 年に近代文芸社出版より発行された日本短編小説文庫－第 27 集に収められている短編である。

自分に逆らってよい関係を結べていない息子が企業戦士でイラクに派遣されている最中に、戦争に巻き込まれフセイン軍の捕虜になったが、やはり実の息子。心配で無事を祈るために四国遍路に出かけ、一番札所霊山寺を出たところで「板東俘虜収容所」のことを聞きつける。松江豊寿大佐の人間味豊かな捕虜に対する扱いに感銘を受けるとともに、フセイン軍の息子への扱いに不安と心配を対比させ、話は進む。そして、大麻彦比古神社裏のドイツ橋は、強制労働で作らせたものではなく、ドイツ人が故郷の風景に似た小川のある場所に、望郷の念と自然を愛する豊かな人間性を有する彼らが自主的に作ったものであると強調し、ドイツ人を称賛し、最後に村の娘と俘虜ドイツ兵の悲恋を後半半分を割き、自我に目覚めた村の娘の日記形式にして華を持たせている。全編に著者の優しい気持ちが現れている作品である。

自立した個人の価値観を持ち親の価値観を否定しようとする息子の中にかつての自分を見つけてしまう。しかし、時代が経ってもそのイデオロギー（組織や他人に縛られない自立した個人）から抜けきれず自分を変えたくなくて、これでいいのかと問い続けるが、やはり親の情が入ってきてしまう。自分の近代的自我をめぐる問題で、柴田翔の「されど我らが日々」が心に残って続編風に作った小説かなと思った。安保闘争を青春時代に体験した人が親になり、今度は子供が再び人生で類似体験する自立した個人を求める姿に本気で対話をしようとしなかった自分に気づき、自分の青春と人生を通して、歴史的事実の中に「自我」の価値と意味を確認したものである。小難しく書きましたが、親や周囲から独立したい青春期と、それを忘れてしまい生意気だとする親世代との繰り返す永遠のテーマでもあります。

実は、この小説の著者は「佐藤高明」氏である。言わずと知れた元阿南高専の国語の名物教師で、文部省の教科書審議官として転出され、以後誰に聞いても消息の知れなくなった人物である。しかし、晩年は徳島に帰り、徳島文理大学教授をされて、しかも同人誌「暖流」に小説まで書いていたようである。他に宮岡、戎谷、寺戸、福島、森川先生と、個性の強い先生が大勢いて、年取った今、可能ならもう一度講義を拝聴してみたい気持ちになる。「高専慕情」である。

「我が谷は緑なりき」

もう 30 年以上前になる。ウェールズの首都カーディフに本校土木工学科出身で、友人の近藤光男さん（後に徳島大学工学部土木工学科教授）が留学中であった。その近藤さんより「一度、遊びにきて下さい」との儀礼的な文面の絵はがきを真に受けて、一人でフラフラと英国へ遊びに行った。

カーディフ駅で英国の新幹線インター・シティ 125 より急いで降りたため、車中に荷物を忘れ、改札口で駅員と交渉した。こちらの言っている事はわかってもらえた（？）が、訛りがひどく何を言っているかわからない。困っているときに助けに入ってくれた人が「こんな所で日本人にあうとは思わなかった」と驚いた日本人で、定年間近な東京の高校の英語の先生であった。昔、映画「わが谷は緑なりき」を観て感動し、一度行きたい、行ってみたいと思い続けてやっと決心し、奥さんと二人でわざわざこんな遠くまで来たとの事であった。その人でも駅員が何を言っているのかよく理解できず、最後はウェールズ訛（語）に慣れた近藤さんが来て、事なきを得た。

しかし何年もかけて地球の裏側のさして有名でもない、こんな片田舎にまで人を誘う映画の影響力の大きさに驚いた。

最近は、コロナで密集を避けるため、映画は近くの「ゲオ」で DVD、ブルーレイを借りたり、アマゾンプライム、ネットフリックス等で観る事が多いが、この頃はどこにもこの名作は置いていなかった。「わが谷は緑なりき」は帰国後、県立博物館のビデオライブラリーで観た。白黒映画で、ウェールズの炭坑夫一家の悲喜劇であった。

俳優はいい役柄を貰ったかどうかで、観る人に与えるイメージが全く異なってくる。太地喜和子はあまり良い印象を持っていなかった女優さんであったが、昭和 51 年封切り「男はつらいよ・寅次郎夕焼け小焼け」をみて大ファンになってしまった。宇野重吉、岡田嘉子の演技も素晴らしかった。

この映画で印象に残っている場面がある。舞台は、三木露風の「赤とんぼ」で有名な播州龍野。池ノ内青観（宇野重告）は今や日本画壇の重鎮となり、志乃（岡田嘉子）とその昔駆け落ちの約束までしておきながら結局は連れて行けなかった。何十年ぶりに帰郷し、ずっーと一人暮らしの志乃を訪ね、再会した場面（脚本）である。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

志乃、静かな仕草で茶を入れている。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

志乃の差し出す茶碗を受け取りながら、青観口を開く。

青観「僕の絵をたまには見ますか」

志乃「へえ。去年京都で個展をなさいました時見に行きました」

青観「そうですか。 —— 確かあの中にもあなたを描いた絵があったはずだが——」

志乃、ふと顔を赤らめる。

志乃「へえ、気がついておりました」

青観「……」

どこか近くの家からであろう、琴の音が聞こえて来る。

青観「静かだなあ」

志乃「あんまり静かなんも、一人暮らしには、さびしいて」

青観「お志乃さん」

青観、ふと居住まいを正し、志乃のほうに体を向ける。

青観「申し訳ない」

志乃「どないして……？」

青観「僕は、あなたの人生に責任がある——」

志乃は、はぐらかすように笑顔を浮かべる。

志乃「和夫さん、昔とちっとも変わらしませんな、その言い方」

青観、顔を赤らめながら、

青観「しかし、僕は後悔してるんだ」

志乃「じゃあ、仮にですよ、あなたがもう一つの生き方をなすっとったら、ちっとも後悔しないと言い切れますか」

青観「……」

志乃「私、近ごろよくこう思うの、人生に後悔はつきものじゃないかしらんて、—— ああすればよかったなあという後悔と、もう一つはどしてあんなことをしてしまったんだろうという後悔……」

青観眼をそらして庭を見ながら、ポケットからハンカチを取り出し目尻を押さえる。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・

もちろん、私にこのような女性がいた訳ではない。

この場面が強く印象に残り脚本まで買ってしまっただけである。深く考えた末にどちらかの事を選択しても、迷いが生ずることがある。この映画は「迷ったり後悔するのは当たり前の事ですよ。一度決めた事をくよくよしなさんな。自分の信じた道を一生懸命に生きることが大切ですよ」と言う事を教えてくれた。もし別の一つを選択していたときは人生はどう変かっているのだろうか……。あのとき、ああしていれば…。あのとき、そうしていなければ…。しないで後悔するより、やって後悔しないほうがいいということだろう。

太地喜和子は、自分に与えられた運命を、明るく、くよくよせず、人生を精いっぱい生きている龍野の芸者の役。こんなところが、終戦直後のイタリア映画と重なる。

コロナが終わったら、いつか龍野にも行ってみたい。

「ポツンと一軒家」

御存じの通り、テレビ朝日系列の日曜夜の 7：58 開始の人気番組である。NHK の「麒麟がくる」がコロナで撮影できず、再放送をしているうちに見るようになった。「日本各地の人里離れた場所に、なぜだかポツンと存在する一軒家。そこには、どんな人物が、どんな理由で暮らしているのか。衛星写真だけを手がかりに、その地へと赴き、地元の方々からの情報を元に、一軒家の実態を徹底調査しながら、人里離れた場所にいる人物の人生にも迫っていく」とある。まさに、へき地、遠隔地にある訪れたことのない未知の地に夢とロマンを感じる旅行のだいご味である。

今年は、海外旅行が出来ず、従来の観光地への国内旅行もできず、人の少ない地を求めての旅行に人気が高まっている。息子の留学先のクリーブランドや娘の住むニューヨークへの旅行を予定していたが断念し、北海道の孤島、礼文島なら行けるだろうと予約したが、これも中継地の東京、行き先の北海道にコロナ患者が急増し断念。そして、この番組を思い出し、県内ならいいだろうと、８月に剣山、祖谷地方に２泊３日で出かけた。自然は雄大で美しく、マスクなしでおいしい空気をたっぷり吸い、英気を養った。道すがらに空き家、廃家が目立つが、遊興施設、お店、ホテルでは地元の人が元気に生き生きと対応してくれ、山の人の元気をもらって満足して帰った。「老人」が生き生きして働いている。彼らのポジティブ思考が旅行に行った者の健康寿命を長くしてくれる。

ここで、剣山、祖谷での宿泊のお薦め。丁度天気が良かったが、夜の星座が素晴らしい。周辺に街がないので明か

りが無く真っ暗で、高度があるので空気が澄み切っており、今まで見たことのない多数の星が輝く天の川、北斗七星など星座群、流れ星がくっきりと見える。。身近に見える飛行機の翼に点滅するランプが遠ざかるにつれて次第に星の瞬きと区別がつかなくなっていく様は「城達也」のジェットストリームの世界。時間を忘れ、天空ショーを静かに楽しんだ。

診察の合間に患者さんと話をしていたら、この番組のファンが意外にも多い。那賀町、木頭村、池田町、貞光町、一宇村出身の患者さんが結構大勢いて、この番組の大ファンだ。幼かりし若いころの山村の様子、生活、食べ物、遊びを懐かしそうに、嬉しそうに話してくれる。今は年に数回墓参りを兼ねて帰るだけ。家が黴臭くなり、畑を雑草が覆い、だんだんと住み辛くなってきていると話す。残念だが、次の世代には、きれいな自然はそのまま残るが、大部分の一軒家は必衰で、山村は、麓で「ポツンと数軒家」になるだろうと予想した。

「麒麟がくる」は再開されたが、BS プレミアムで PM 6 時に録画し、観ている。「そこまで言って委員会 NP」、「半沢直樹」等日曜劇場もあって、日曜日はTVにも忙しい。ほかの日も、コロナで旅行に行けなくなった分、新聞のテレビ欄を探し NHKBSP の「世界ふれあい街歩き」をはじめ旅番組を追い求め、すっかり地上波や BSTV、アマゾンプライム、ネットフリックス、YouTube の虜になった。そして、若いころ週三日で「上那賀病院」に一年近く勤務したり、半田町の奥にある「八千代診療所」に週一回パートに行って「ポツンと一軒家」にもたびたび往診していた経験のある私は、引退後このような山の中で十分暮らせると思っている。「とくし丸」と「ネット」と「外付けの大容量ハードディスク付きのテレビ」さえあればの話であるが。

「首相の所信表明」

菅義偉氏が官房長官の時、平成から令和に代わって、今度の元号は「令和」と発表したものだからマスコミにアイドル風にもてはやされ、「令和おじさん」との愛称がある。この人が、今度内閣総理大臣になった。所信表明で「自助・共助・公助」と言った。「自分でできることはまず、自分でやってみる。そして、家族、地域で互いに助け合う。そのうえで政府がセーフティネットで守る」という意味である。私は「また、えらい高尚なことを政権のスローガンにしているなと思う一方、昔の日本人の田舎の相互扶助の共同社会を復活させようとしているな」と思ったが、即マスコミ、一部の学者、野党が申し合わせたように手のひらを返したような批判の嵐をあびせた。自助からでなく、公助を優先しなければいけないというのが彼らの論調・社説の要点である。

自助を最初に置き、公助を最後にしたのは、社会における個人の在り方の基本は「まず自分でやってみることだ」ということで、「それでもかなわなければ役所が何とかしましょう」と言う菅首相の描く社会像だろう。東日本大震災、度重なる台風、豪雨による大洪水など最近自然災害に再々見舞われている我が国にとって当たり前のものだと理解していた。秋田の田舎出身の首相の言いたい事は、幼少期に体験したであろうお互い助け合う地域社会の復活を目指したものであろう。そして、実は、この「自助・共助・公助」は菅さんが言い出したものではない。元々、自助・共助・公助は防災関係者が使っていた用語で、友人、隣人らによる災害時の共助の重要性と共に公助を充実するとの意味である。防災行政で、自助と共助はあくまでも公助の部分を補うものというのが基本的な考えで、主役は公助であるとしてあったものだ。官房長官を長年やっていたのでこの辺はよく知っていたと思うが、マスコミ、一部学者、野党諸氏はこのことを知っていたかどうかは疑問である。なんでも批判すればいいというものではない典型的な「物言い」である。

私は、このスローガンを聞いた直後に感じたのは、自由主義、民主主義国家の根幹の言葉かもしれないが、あるアメリカの大統領の就任演説の日本版「パクリ」に近いと思った。「Ask not what your country can do for you, ask what you can do for your country. …… 国があなたのために何をしてくれるのかを問うのではなく、あなたが国のために何をなすことができるのかを問うて欲しい」。これは第 35 代アメリカ大統領 J.F. ケネディの就任演説で、今だに称賛されている有名な言葉であるが、しかし、これは「自助」のみで、我が国の首相のほうが国民には優しい。同じようなことを言っても、評価は、国、時代、諸状況、立場、人によってどうにでも変わる事を示している。

家内に、コロナで減額されたおこづかいの増額復活を目指して「共助・公助」を求めたが、まず不必要、使用しない無駄なものを買わないように「自助」を求められた。やはりケネディ大統領や菅首相と同じで、「自助」が先らしい。マスコミや一部学者、野党の諸氏は実生活では私と同じ立場の人々で、うっぷん晴らし的な主張なのかもかもしれない。とかくこの世は住みにくい。

「PCR 検査」

3 月頃から、「なぜ希望者全員に PCR 検査をしてくれないのか？」と、テレビのワイドショー、雑誌、新聞等を中心に騒がしかった。検査体制の貧弱さと 37.5 度の熱が 4 日以上続き、呼吸困難の症状のある中～重症患者に絞り検査し、諸外国に比べて我が国の検査数が桁違いに少なかったからである。多少厳しすぎて、志村けんさん、岡江久美子さんら基礎疾患を有していたタレント、高齢者のオムロンの立石義雄さんらにとって、大変残念なことになった。私の患者もなかなか検査してくれず、会社にも行けず、家でも居場所がなくノイローゼ、うつ状態になった人もいた。最初、マスコミも欧米と違うわが国独特の検査体制を連日批判を続けており、私も最初は、直ちに検査してくれない政府のやり方はおかしいと思ったが、検査体制が貧弱で、重症病床数が極端に少ない我が国にとって、生死にかかわる重症患者を早く見つけて入院治療し、死亡率を減らすとの方針は結果的にうまいやり方だと思った。

台湾、ベトナムのように中国にアンテナを張っている国は、中国国内の通信を絶えずウォッチしており、中国武漢市内での未知の感染症の流行の情報をいち早く知っていたようである。WHO 発表前に世界に先駆け早々に渡航禁止、入国禁止にし、国内への感染者流入を防いだ。しかし、我が国は中国を中心のインバウンド客が大量に来日しており、また世界との経済活動を止めるわけにいかず放置し、止めは 3 月の春休みで、若者を中心に海外旅行に行った人が多く、これらの人が帰国と共にコロナウイルスを日本に持ち込んだようだ。

3 月頃の PCR 検査の感度は、良くて 50 ～ 70％で、特異度は 90％くらいと報道されていた。はるか昔、公衆衛生学で学んだが、感度とは陽性者を陽性と判定する数値で、特異度とは陰性者を陰性と判断する数値で、3 月当時の測定キットは感度、特異度が前述の値で余り高くない状態であった。こんな状態でたくさん検査をすると、陽性者の漏れと、陰性者の擬陽性者が多く、社会的に大変な状態になっていたであろう。コロナウイルスは指定感染症の二類感染症相当となったため陽性者は余儀なく入院、隔離を強いられる。

欧米で、病院の廊下にまで入院患者が収容され、後からの重症患者が手当てを受けられずに大勢死んでいったのに反し、我が国では陽性の重症者のみを見つけ早く診断・入院させ治療したのが、死亡率が高い欧米と比較し低く維持できたと推測された。現に欧米のような「医療崩壊」は何とか免れている。これは「有病率」の低い疾患に対して、そのまま大勢の人に感度、特異性、陽性的中率の低い検査キットを使用することの危険性をよく知っていた人が指導的役割を果たしてきたのではないかと思った。今も、症状のある人、クラスター、濃厚接触者を中心に検査が行われている。医療従事者、資源、資金には限りがあるのだから有効に使わなければならない。とにかく、不確かな情報が多すぎるので惑わされないことが大切。この日本の取った方法は今やWHOをはじめ、世界的に評価されている。結果（実績）がすべてである。

そして、保健所の負担軽減を目的とした 11 月からの感染症対策の変更で、当院のような一般診療所の外来においては、迅速に結果のでないPCR検査は控え、熱発の人は駐車場での問診、30 分で結果のわかるコロナ抗原定性検査を実施し、陽性の患者は保健所に連絡し入院・隔離をしてもらい、陰性であったら、従来通り、問診、診察、CBC、肺の X-P 等従来の検査を参考にしての治療をし、これでも疑いのある患者には日を変えて再検査、医師会等のPCR検査センターに紹介するのが無難だろう。

そうは言っても、患者を早く見つけ「かかりつけ医」としての責任を果たしていきたい半面、こちらは罹りたくないので、感染対策をとってのコロナ抗原定性検査・診療を始めた古希を迎えた高齢開業医のコロナ診療は心身共にかなりの負担で、こちらが罹れば 2 週間の医院の休診と、風評被害が待っており、苦悩の毎日が始まったばかりである。

PCR 検査の感度、特異度の違う条件での計算式を示す。この計算方法は昔、公衆衛生学で学習しましたから、医療関係者の中ではよく参考にする計算式です。表にするとわかりやすいので、サラッと、数値を入れてみます。

1 ～ 5 月頃の PCR 検査キットの感度は 50 ～ 70％、特異度は 90％程度と言われており、高いほうの値をとって、

A)『感度 70％、特異度 90％の検査を 1000 人に実施した場合』

1）有病率 0.1％の場合

罹患している人 1 人		罹患していない人 999 人	
① 検査で陽性 0.7 人	② 検査で陰性 （偽陰性） 0.3 人	③ 検査で陰性 899.1 人	④ 検査で陽性 （擬陽性） 99.9 人

陽性的中率＝①÷（①+④）＝ 0.7 ÷（0.7 + 99.9）
＝ 0.70%
陰性的中率＝③÷（②+③）＝ 899.1 ÷（0.3 + 899.1
＝ 99.97%

2）有病率１％の場合

罹患している人　10 人		罹患していない人　990 人	
① 検査で陽性 7人	② 検査で陰性 （偽陰性） 3人	③ 検査で陰性 891 人	④ 検査で陽性 （擬陽性） 99 人
陽性的中率＝①÷（①+④）＝7÷（7＋99）＝6.60% 陰性的中率＝③÷（②+③）＝891 ÷（3＋891）＝99.7%			

3）有病率５％の場合

罹患している人　50 人		罹患していない人　950 人	
① 検査で陽性 35 人	② 検査で陰性 （偽陰性） 15 人	③ 検査で陰性 855 人	④ 検査で陽性 （擬陽性） 95 人
陽性的中率＝①÷（①+④）＝35 ÷（35 ＋ 95）＝26.9% 陰性的中率＝③÷（②+③）＝855 ÷（15 ＋ 855） ＝98.3%			

4）有病率 10％の場合

罹患している人　100 人		罹患していない人 900 人	
① 検査で陽性 70 人	② 検査で陰性 （偽陰性） 30 人	③ 検査で陰性 810 人	④ 検査で陽性 （擬陽性） 90 人
陽性的中率＝①÷（①+④）＝70 ÷（70 ＋ 90）＝43.8% 陰性的中率＝③÷（②+③）＝810 ÷（30 ＋ 810） ＝96.4%			

5）有病率 30％の場合

罹患している人　300 人		罹患していない人　700 人	
① 検査で陽性 210 人	② 検査で陰性 （偽陰性） 90 人	③ 検査で陰性 630 人	④ 検査で陽性 （擬陽性） 70 人
陽性的中率＝①÷（①+④）＝210 ÷（210 ＋ 70）＝75.0% 陰性的中率＝③÷（②+③）＝630 ÷（90 ＋ 630）＝87.5%			

6）有病率 50％の場合

罹患している人 500 人		罹患していない人 500 人	
① 検査で陽性 350 人	② 検査で陰性 （偽陰性） 150 人	③ 検査で陰性 450 人	④ 検査で陽性 （擬陽性） 50 人
陽性的中率＝①÷（①+④）＝350 ÷（350 ＋ 50）＝87.5% 陰性的中率＝③÷（②+③）＝450 ÷（150 ＋ 450）＝75.0%			

最近の北海道大学病院の鼻咽頭ぬぐい液や唾液による PCR 検査の精度が、いずれもほぼ同じで、感度が 90％、特異度が 99％であると発表した（9 月 30 日付け日本経済新聞）。これで計算しなおしてみると、

B)『感度 90％、特異度 99％の検査を 1000 人に実施した場合』

1）有病率 0.1％の場合

罹患している人　1 人		罹患していない人　999 人	
① 検査で陽性 0.9 人	② 検査で陰性 （偽陰性） 0.1 人	③ 検査で陰性 989.01 人	④ 検査で陽性 （擬陽性） 9.99 人
陽性的中率＝①÷（①+④）＝ 0.9 ÷（0.9 ＋ 9.99） ＝ 8.26% 陰性的中率＝③÷（②+③）＝ 989.01 ÷ （0.1 ＋ 989.01）＝ 99.99%			

2）有病率１％の場合

罹患している人　10 人		罹患していない人　990 人	
① 検査で陽性 9人	② 検査で陰性 （偽陰性） 1人	③ 検査で陰性 980.1 人	④ 検査で陽性 （擬陽性） 9.9 人
陽性的中率＝①÷（①+④）＝9÷（9＋9.9）＝47.62% 陰性的中率＝③÷（②+③）＝ 980.1 ÷（1＋980.1） ＝ 99.90%			

3）有病率５％の場合

罹患している人　50 人		罹患していない人　950 人	
① 検査で陽性 45 人	② 検査で陰性 （偽陰性） 5人	③ 検査で陰性 940.5 人	④ 検査で陽性 （擬陽性） 9.5 人
陽性的中率＝①÷（①+④）＝ 45 ÷（45 ＋ 9.5） ＝ 82.6% 陰性的中率＝③÷（②+③）＝ 940.5 ÷（5 ＋ 940.5） ＝ 99.5%			

4）有病率 10％の場合

罹患している人　100 人		罹患していない人　900 人	
① 検査で陽性 90 人	② 検査で陰性 （偽陰性） 10 人	③ 検査で陰性 891 人	④ 検査で陽性 （擬陽性） 9人
陽性的中率＝①÷（①+④）＝ 90 ÷（90 ＋ 9）＝ 90.9% 陰性的中率＝③÷（②+③）＝ 891 ÷（10 ＋ 891） ＝ 98.9%			

5）有病率 30％の場合

罹患している人　300 人		罹患していない人　700 人	
① 検査で陽性 270 人	② 検査で陰性 （偽陰性） 30 人	③ 検査で陰性 693 人	④ 検査で陽性 （擬陽性） 7人
陽性的中率＝①÷（①+④）＝ 270 ÷（270 ＋ 7）＝ 97.5% 陰性的中率＝③÷（②+③）＝ 693 ÷（30 ＋ 693）＝ 95.9%			

6）有病率 50％の場合

罹患している人　500 人		罹患していない人　500 人	
① 検査で陽性 450 人	② 検査で陰性 （偽陰性） 50 人	③ 検査で陰性 495 人	④ 検査で陽性 （擬陽性） 5人
陽性的中率＝①÷（①+④）＝ 450 ÷（450 ＋ 5）＝ 98.9% 陰性的中率＝③÷（②+③）＝ 495 ÷（50 ＋ 495）＝ 90.8%			

1．感度が高いと、偽陰性が少なく、見逃しが少ない。
2．感度が低いと、見逃しが多く、結果が陰性でもコロナウイルス感染を否定できない。
3．PCR 検査は特異度が高く、陰性が出ると実際に陰性である確率は高い。しかし、100％ではない。
4．特異度が高いと、擬陽性が少なく、陽性ならコロナウイルスに罹患している確率が高い。
5．特異度が低いと、コロナウイルス感染がないのに、罹患していると判定される確率が高い。
6．陽性的中率は、検査精度の指標で、検査で陽性になった人が、実際に罹患している確率
7．陰性的中率は、検査精度の指標で、検査で陰性になった人が、実際に罹患していない確率
8．陽性的中率はだれに検査するかで変化する。症状のある重症の人だけとした有病率の高い集団で上昇する。
9．陽性的中率が高く、陰性的中率が低い検査キットがよいキットで、有病率が高くなるほどよりよい判定になる。
10．有病率が低いと、感度、特異度の高い検査キットを使ってもよい判定が出来ない。誤判定がもたらす危険性が高くなる。
11．上下の表の試算比較から、有病率の低いほど、また感度、特異度の低い検査キットを使用すると、罹患者を補足する確率が低く、擬陰性が高く見逃しが多い。
12．陽性的中率は有病率によって変化する。４月初旬に発表された東京都の有病率は 0.1％と大方の専門家の予想値よりはるかに低かった。５月上旬のソフトバンクの抗体検査でも 0.2 ～ 0.4％で、あまりの低さに驚いた。上記でもわかるとおり、だれもかれも調べても陽性的中率は極めて低く、日本が実施した、より症状の強い人のみ選び有病率を高くした集団での検査が、いかに有効かがわかる。よって適宜、日本各地域における有病率を確認しながら検査の対象を考慮すべきである。

悠久同窓会　オゾン空気清浄機の寄贈について

悠久同窓会は、阿南高専にオゾン空気清浄機８台を寄贈し、令和２年 10 月 15 日に感謝状の贈呈式が行われました。

平山校長から「悠久同窓会の支援にいつも感謝しています。学生とその先輩方のつながりを大切に、教職員共々阿南高専をもりあげていきたい」とお言葉をいただきました。

また、学生代表として出席した多田学生会長が「先輩の存在を心強く思います」と感謝を述べられました。

（前列左から）
多田学生会長、平山校長、横手同窓会長、西野同窓会副会長
（後列左から）
小林事務部長、原野寮務主事、田中副校長、宮﨑同窓会副会長

現役クラブだより

…体育部…

テニス部

テニス部は現在総部員数 40 名で活動しています。新たに１年生が９名（男子５名、女子４名）入部しました。経験者も多く、部内での競争が高まっています。

本年度は、新型コロナ感染症のため、前期のほとんどが休校となり、部活動もほとんど活動できませんでした。また、年度早々には、夏の四国・全国高専大会、高校総体の中止が決定され、目標を見失ったり、モチベーションが低下してしまいました。特に、最終学年の５年生にとっては、すべての大会が中止となり、無念でしかありません。残る学生がその悔しさを引き継いで頑張ってくれることを期待しています。

このような中でも､厳重な感染症対策や学校の配慮により、いくつかの高校大会には参加することができました。関係者の皆様には誠に感謝しております。

高校総体は中止となりましたが、３年生のみの代替大会が開催されました。野口キャプテンのリーダシップの元、休校中にも関わらず、各自が家庭で自主練習を行い、大会に臨みました。中には、練習器具を作成する学生まで現れ、自ら考え行動するという力がこの３年間で身についていることを見せてくれました。

10 月に行われた徳島県高校新人テニス大会では、昨年度に引き続き男子団体で準優勝し、全国選抜高等学校テニス大会四国地区大会に出場することができました。四国大会では、四国№.１の新田高校と初戦で対戦しました。敗れはしたものの、高いレベルのテニスを体験することができ、大きな収穫を得ることができました。

以上のように、本年度は制限ばかりの中、思うような活動ができませんでしたが、来年度こそはコロナ終息を願い、思いきり練習や大会に取り組める環境を望んでいます。

テニス部 OB、OG および関係保護者の皆様におかれましては、来年度、高校総体や四国・全国高専大会が開催されましたら、是非ご来場して頂き、応援をお願いできればと思います。今後ともテニス部をよろしくお願いします。

令和元年 12 月～令和２年 12 月までの活動状況をお知らせします。

1．顧問・コーチ

主顧問：中島（一般）

原野（機械）、高岸（技術部）、長田（建設）、錦織（一般）、小林（電気）

外部コーチ

シオンテニスクラブ河野一郎・阿紀子両氏との連携は 10 年目となりました。テニス部の躍進には欠かせない連携です。

2．部　　員

５年生８名、４年生５名、３年生 10 名、２年生７名、１年生９名

3．部　　長

男　子　矢野　大輝（3E）

低学年キャプテン　美馬　歩嵩（2I）

女　子

低学年キャプテン　宇津　和奏（1-1）

4．練習時間

月火木金の放課後（16 時 15 分～ 18 時 45 分）

土（８時 30 分～ 11 時）

5．令和元年 12 月～令和２年 12 月までの主な試合成績は次のとおりです。

◆令和２年度徳島県高校新人テニス大会

男子団体　準優勝

（多賀原（2M）、吉川（2M）、鹿島（2E）、日下（2I）、美馬（2I）、尾田（1-1）、伊達（1-2）、田中（1-3）、浦（1-4））　〈２年連続〉

6. その他

令和３年３月に行われる春の四国高専大会も中止が決定されています。

（テニス部顧問　中島　一）

第43回 全国選抜高校テニス大会四国地区大会
（松山中央公園テニスコート）
令和２年11月14日

陸上競技部

OB＆OGの皆さん、陸上競技部の近況をご報告いたしますが、今年はとにかく新型コロナウイルスに振り回された１年となりました。部員達がこれまで毎年のように目標にしていた四国高専大会、全国高専大会（奈良県開催）、四国高校陸上競技対校選手権大会（高知県開催）、インターハイ（静岡県開催）が相次いで中止になりました。しかも、２月下旬から６月末までは大会出場はおろか練習もままならない状態が続き、新一年生の入部も大幅に遅れました。それでも、部員達は気持ちを切らさず、７月上旬から再開された各種大会で頑張りました。

顧問教員の変更はなく、谷中俊裕（一般教養：英語）先生、松尾俊寛（一般教養：物理）先生、大北先生（機械コース）、伊丹伸（機械コース）の４名体制です。外部コーチは、昨年に引き続き本校陸上競技部OBの麻植一輝さんにお願いしています。

さて、2020 年の陸上競技部の活動状況を振り返ってみます。例年に比べて参加大会数および参加選手数とも減少した影響で、報告結果に少々物足りなさを感じるかもしれませんがご容赦ください。まずは、一般大会関係についてです。10月に行われた香川陸上競技カーニバル大会の男子 5000mW に出場した島田史也（1AM）君が見事、徳島県新記録を樹立しました。島田君はこの功績が認められ、2020 年一般社団法人徳島陸上競技協会優秀選手（一般男子）に選出されています。もちろん、阿南高専陸上競技部史上初のことです。また、第 91 回徳島県陸上競技選手権大会では、男子棒高跳で谷知篤（4C）君が大会２連覇を達成しました。次に、高校大会関係についてです。徳島県高等学校総合体育大会代替大会陸上競技では、男子走高跳で大前雄三（2M）君が優勝しました。第 50 回徳島県高校新人陸上競技大会では、男子走高跳で大前君が優勝、女子 800m と女子 1500m で黒田凜（2C）さんが優勝（両種目とも大会２連覇の偉業）しました。また、黒田さんは、女子全国高校駅伝競走大会徳島県予選会に合同（徳島北・阿南高専・海部）チームの選手として出場（第２区を出走）しました。合同チームのためオープン参加扱いとなっていますが、第２区の区間賞を獲得した選手をタイムで上回る見事な走りをみせました。

ここ数年恒例となっている徳島県一般および高校陸上競技ランキングへの部員のランクイン状況の紹介ですが、2020 年はランクインした部員数が６名、種目数が９種目（うち３種目で１位）でした。過去３年と比べると数は少なくなっています。詳細につきましては、徳島陸上競技協会ホームページ http://www.jaaftokushima.com/ に掲載されていますのでご覧ください。本校陸上競技部ＯＢの麻植（砲丸投、円盤投、やり投の３種目でランクイン）さん、大平（800m、1500m の２種目でランクイン）さん、両名も自己ベストを更新（卒業後も進化を続けています）するなどまだまだ第一線で活躍中です。

ところで、2021 年３月に長年待ちわびていた徳島県南部総合運動公園陸上競技場（阿南市桑野町）が完成します。高専から比較的に近いところ（約７km）に全天候型競技場ができることは大変喜ばしいことです。平日の使用は時間の関係上難しいかもしれませんが、週末のポイント練習には有効活用できそうです。

最後に、2021 年（令和３年）の目標を挙げておきます。インターハイ（福井県開催）出場、四国地区高専体育大会陸上競技（阿南高専主催：西条市）の総合５連覇達成、全国高専体育大会陸上競技（東北地区で開催予定）の複数の個人種目でのメダル獲得などを目指しています。新型コロナウイルスの感染状況により、大会開催が不透明な部分はありますが、できるだけ頑張りたいと思っています。なお、2022 年にはインターハイ陸上競技が徳島県（鳴門市）で開催される予定です。OB＆OGの皆さん、これからも阿南高専陸上競技部への御支援､御指導ならびに応援よろしくお願いいたします。

以下に 2020 年に出場した各大会での上位入賞者の種目＆順位＆記録を列記しておきます。

《一年間の主な戦績［2020 年（令和２年）１月から12月まで］》

◆第 66 回徳島駅伝　令和２年１月４日～６日

［南方（由岐）、北方、西方コース］

勝浦郡代表選手　森内拓磨（3M）

・第 30 区（7.5km）　第 12 位　28’ 44”

・第 36 区（8.2km）　第 14 位　29’ 52”

勝浦郡代表選手　松田優汰（2M）

・第５区（6.1km）　第 13 位　23’ 28”

・第 34 区（6.6km）　第 16 位　23’ 04”

名東郡代表選手　桒原辰光（2I）

・第１区（7.1km）　第 15 位　24’ 57”

・第 34 区（6.6km）　第 13 位　22’ 49”

小松島市代表選手　黒田　凜（1-2）

・第 15 区（3.5km）　第 6 位　12’ 42”

・第 41 区（4.2km）　第 7 位　15’ 42”

◆第 41 回四国地区高専駅伝大会

令和２年１月 25 日（高知高専）

・総合　第３位　1：31’ 54”（全６区間　計 25.5km）

第１区（3.5km）：富永（1-4）、第２区（5.0km）：森内（3M）

第３区（3.5km）：島田（5M）、第４区（5.0km）：松田（2M）

第５区（5.0km）：山﨑（1-2）、第６区（3.5km）：桒原（2I）

第６区（3.5km）　区間賞　桒原辰光（2I）　12’ 14”

◆令和元年度第１回徳島県強化投てき記録会

令和２年２月 15 日（ポカリスエットスタジアム）

・男砲丸投（6.000kg）

第１位　坂野翔哉（2C）　12m99

◆徳島県高等学校総合体育大会代替大会陸上競技

令和２年７月５日（ポカリスエットスタジアム）

・男走高跳　第１位　大前雄三（2M）　1m84〈自己新〉

第５位　森　麗央（2M）　1m70〈自己タイ〉

・男砲丸投（6.000kg）

第３位　坂野翔哉（3C）　12m13

・女 1500m　第４位　黒田　凜（2C）　4’ 58”42

◆2020 第２回徳島中・長距離記録会
令和２年７月11日（ポカリスエットスタジアム）
・女 800mA組　第２位　黒田　凜（2C）　2’26”33

◆第 91 回徳島県陸上競技選手権大会
令和２年７月23日～24日（ポカリスエットスタジアム）
・男 5000m W　第４位　島田史也（1AM）　24’06”16
・男走高跳　第４位　森　麗央（2M）　1m70
〈自己タイ〉
・男棒高跳　第１位　谷　知篤（4C）　4m20
〈大会２連覇〉

◆令和２年度第２回徳島県陸上競技強化記録会
令和２年８月30日（ポカリスエットスタジアム）
・男 5000m W　第１位　島田史也（1AM）　23’15”29
・女 1500m　第２位　黒田　凜（2C）　4’53”65

◆2020 第１回とくしま市中・長距離記録会
令和２年９月12日（ワークスタッフ陸上競技場）
・女 1500m　第２位　黒田　凜（2C）　4’58”64

◆第 50 回徳島県高等学校新人陸上競技大会
令和２年９月20日～21日（ポカリスエットスタジアム）
・男走高跳　第１位　大前雄三（2M）　1 m76
・女 800m　第１位　黒田　凜（2C）　2’23”50
〈大会２連覇〉
・女 1500m　第１位　黒田　凜（2C）　4’47”10
〈大会２連覇 阿南高専新 自己新〉

◆2020 第５回徳島県中・長距離記録会
令和２年10月11日（ポカリスエットスタジアム）
・女1500mA組　第１位　黒田　凜（2C）　4’53”40

◆第 22 回四国高等学校新人陸上競技選手権大会
令和２年10月17日～18日（ニンジニアスタジアム）
・男走高跳　第９位　大前雄三（2M）　1 m84
〈自己タイ〉
・女 800m　第５位　黒田　凜（2C）　2’22”69
・女 1500m　第10位　黒田　凜（2C）　4’50”02

◆第９回徳島陸上競技秋季カーニバル
令和２年10月31日（ポカリスエットスタジアム）
・男走高跳　第２位　大前雄三（2M）　1 m82
第８位　森　麗央（2M）　1 m73
〈自己新〉

◆2020 年度香川陸上競技カーニバル大会
（香川県立丸亀競技場竣工記念）
令和２年10月24日～25日（Pikaraスタジアム）
・男 5000mW　第１位　島田史也（1AM）　20’54”11
〈徳島県新 阿南高専新 自己新〉

◆女子第 32 回全国高等学校駅伝競走大会徳島県予選会
令和２年11月１日
（ポカリスエットスタジアム周辺長距離走路）
徳島北・阿南高専・海部合同チーム
・第２区（4.0975km）　OPEN　黒田　凜（2C）　14’32”

◆2020 第５回とくしま市中・長距離記録会
令和２年12月12日（ワークスタッフ陸上競技場）
・女 3000m　第２位　黒田　凜（2C）　10’37”75

◆2020 年 一般社団法人徳島陸上競技協会優秀選手
令和２年12月18日
一般男子の部　島田史也（1AM）

（陸上競技部顧問　伊丹　伸）

…文化部…

吹奏楽部

令和２年度はコロナ禍のため多くの活動が取りやめとなりました。吹奏楽部として例年行っている、入学式演奏、室内コンサート、蒼阿祭演奏などを行うことができませんでした。そして 12 月本校主管で開催予定であった四国地区高専総合文化祭も中止となりました。

一方で、今年度の新入部員は７名と多く、バンドとして一気に活気づきました。10 月から少しずつ個人練習を始め、11 月５日学生会主催のハロウィンイベントの開会前に、フェニックス広場にて 15 分ほどの演奏発表を行いました。

また、11 月 29 日高専ロボコン全国大会に阿南高専のロボットチーム Awa Dancers が出場した折には、ロボットが阿波踊りを踊るその間の演奏を吹奏楽部員が担当しました。

最後に、12 月 23 日には阿南光のまちづくり協議会主催の「ANAN ルミナスタウンプロジェクト ウィンターイルミネーション 2020」“あなん光マンダラステージ”に吹奏楽部が出演し、「Moonlight Serenade」「イン・ザ・ムード」「Last Christmas」「宝島」を演奏しました。

今後しばらくはいろいろな制約の中において活動することになると思いますが、工夫して演奏を続きていきたく思います。今後ともよろしくお願いいたします。

（吹奏楽部顧問　錦織浩文）

茶　道　部

茶道部 OB・OG の皆さま、お元気でご活躍のことと存じます。茶道部は現在部員 13 名（５年４名、４年４名、３年３名、１年２名）で活動しています。昨年度は、結局、１年生の入部はなく今年度の２年生部員は不在です。しかし、新たに４年生で２名、１年生で２名の新入部員があり、少人数ではありますが、和気藹々とお稽古に励んでいます。

と言いましても、ご承知の通り、新型コロナウイルス対応で今年度前期は学校もオンライン講義が中心となり、部活動・学寮の教養講座も実施できませんでした。後期は学校の対面講義も再開して、学寮の教養講座のお手伝い（月曜の夜）を中心に、毎週２回ずつ、高志会館２階和室で部員たちはお点前の稽古をしています。教養講座の日には亀井かよ先生・林初音先生も来校されて、いつも通り熱心にご指導いただいています。また、茶道部 OB の桑村憲治寮務係長にも引き続きいろいろご助言いただいてお世話になっています。顧問は私（藤居）のほか、機械コースの大北裕司先生が担当しています。

以下、今年度の行事報告です。後期になって再開した教養講座は、コロナ対応のために回数と受講人数を制限したうえで実施しています。また、正座ができない学生も増えてきたために、特別の座椅子を用意するようになりました。講座の実施回数も減らしており、今年度分は 12 月で終了しています。

例年実施している春と冬のチャリティー茶会も、コロナウイルスの感染状況を踏まえて、残念ながら中止としています。11 月の蒼阿祭のお茶会も蒼阿祭自体が中止、12 月に実施予定だった総合文化祭も、今年度は本校主催で夢ホールで実施予定でしたが、こちらも中止と、高専全体の諸行事が軒並み中止となっており、茶道部関連の行事も大きく影響を受けることになりました。

このような状況の中でも、茶道部の明るい雰囲気は相変わらずで、みな一所懸命にお点前の稽古に励んでいます。

部　　長　八原美月（電気コース４年）
顧　　問　藤居岳人（一般教養）、大北裕司（機械コース）

コロナウイルスが収束して、できるだけ早くこれまでのような活動ができることを願っています。今後とも OB・OG の皆さまにはご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。また、このような状況下でございますので、OB・OG の皆さまもくれぐれもご自愛ください。

（茶道部顧問　藤居岳人）

プログラミング同好会

プログラミング同好会の OB・OG の皆様、今年度は、新型コロナウイルスの影響により、遠隔授業の実施など新型コロナ対策に追われる１年でした。第 31 回全国高専プロコンは、苫小牧高専主管で開催される予定でしたが、新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から現地開催を中止し、競技部門は無く、課題部門と自由部門のみのオンライン開催となりました。また、予選通過は例年の半分の各部門 10 案となり、予選通過も難しい大会でした。

阿南高専は課題部門で「楽しく学び合える！」をテーマとした課題部門で、「PINT！－時空を超えて楽しく学ぶ遠隔授業支援ツール－」と題して、新型コロナウイルスの影響で登校できず、孤独に遠隔でオンデマンド授業を受ける学生を支援する授業動画へのコメント共有システムを提案したチームが予選を通過しました。

３年生のチームに４年生が開発をサポートする体制で、予選通過から本選の審査用プレゼン動画、デモ動画の提出まで、２ヶ月という短い期間で、短い夏休みもオンライン合宿を行うなど、システムの開発とアピール動画の撮影に懸命に取り組みました。

本選のオンライン審査では、慣れないオンラインに大会でシステムの良さを伝えきれない部分もありました。入賞は逃しましたが、短い期間でシステムを完成させ本選でアピールできたことは、参加した学生にとって良い経験になったと思います。今後とも変わらぬ皆様からのご声援よろしくお願いします。

（プログラミング同好会顧問　吉田　晋）

支部だより

悠久東京支部同窓会

悠久東京支部同窓会より

支部長（昭和48年度機械）　高　橋　保　人

悠久東京支部支部長の高橋です。皆様いかがお過ごしですか。令和２年に入った直後にクルーズ船の乗客らの新型コロナウイルス感染者のニュースが飛び込んできました。その後あっという間に感染が広まったのはご存じのことと思います。３月には「緊急事態宣言」が発出され自粛要請が始まりました。皆様におかれましてもかなりの負担を強いられたのではないかと考えます。

東京支部も自粛要請を受け、令和２年４月11日(土)、新宿住友ビル住友クラブにて同窓会開催を予定しておりましたが、やむなく中止としました。事前にはかなりの人数の参加表明がありましたので中止としたのは断腸の思いがあります。

話は変わりますが、４月に阿南市東京事務所の柏木所長から、阿南市の高校、高専を卒業し、故郷を離れて県外で暮らす学生を支援しようという話がありました。世の中はコロナで自粛生活となり、学校も行けず、帰郷もできず、更にバイトもできず困っている学生難民が多くいるとのことでした。柏木所長は「東京・阿南ふるさと会」事務局として積極的に活動されており、富西、富東、阿南高専などの高校、高専の同窓会の代表に声をかけ、親元を離れて過ごす学生の支援ができないかとの打診がありました。（内容は令和２年５月14日の徳島新聞に掲載されました。更にNHK徳島、四国放送でも取り上げられたようです。）

悠久同窓会東京支部としても、後輩が困っているのを看過できず悠久同窓会メンバーに声を掛け、賛同を得た方から厚志を頂くこととしました。あっという間に厚志金が集まり支援に貢献できました。

後輩である板野郡出身の学生から、東京・阿南ふるさと会のフェイスブックに「本当にありがとうございます！阿南市内の高校／高専出身の大学生ということで申し込みました。地元からの援助というのはやはり支えになります。」とのうれしいメッセージを頂きました。ご協力頂いた同窓会メンバーにはこの場を借りて感謝申し上げます。

更に話は変わって、８月には悠久同窓会有志のリモート飲み会に参加しました。今はやりの「Zoom」で実施しました。今回20E宮本氏のご指導によりアプリをダウンロードに取り組んだ方もいたようです。１期生から20期生まで10数名参加があり、横手久典同窓会会長、西野賢太郎副会長、日出晴夫徳島支部長、久米啓右関西支部長の参加により、今後の同窓会の進め方などについて意見交換できたことは有意義だったと考えています。徳島になかなか帰れない人にとってはリモートでの参加は良かったと思います。今後もリモートワークやリモート飲み会なるものが増えてくるのではないかと思います。

最後になりますが、次回の同窓会に向けてのお願いです。関東にいる卒業生は年に一度ですので、是非参加し親睦を深めて頂ければと思っています。先生方も、関東にいる卒業生の成長や会社の状況などの話ができる機会があると思いますので、お忙しい中ではありますが参加をお願いいたします。

次回の同窓会は、令和３年４月24日（土）13時開始新宿住友ビル住友クラブで実施する予定です。詳細は別途ご連絡いたします。

よろず伝言板

「各種証明書」の発行事務についてのお願い

卒業生の皆様が、各種資格の取得、就職試験、進学受験、海外出張等をされる場合には、ほとんどの場合、本校に在籍し、または卒業・修了したことについて、各種の証明書が必要です。（卒業・修了・成績・履修・調査書など）これらの証明書を速やかに発行するため、以下のことにご留意・ご協力いただきますよう、よろしくお願いいたします。

１．各種証明書の発行申請について

各種証明書の発行は、「諸証明書発行願」により、学生課教務係へ申し込んでください。

この発行願は、教務係に設置しているほか、学校のホームページからダウンロードすることができます。提出するときには、押印が必要です。

２．遠隔地からの発行申請について

県外在住など来校するのが難しい場合、下記のものを郵送して申し込むことができます。

①　「諸証明発行願」：発行願には下記のことを記載してください。

㈠必要な証明書の種類（卒業証明書・成績証明書等）
㈡必要部数
㈢使用目的・提出先
㈣氏名（卒業時の名字）
※英文証明書が必要な場合は、パスポートどおりのローマ字表記を併記してください。
㈤生年月日
㈥卒業・修了学科
㈦卒業・修了年月日

②　返信用封筒

㈠郵便番号・宛先・宛名を記載してください。
㈡84円切手（必要部数が多い場合は94円か120円）を貼ってください。
速達の場合は290円分を追加してください。

３．その他

①英文証明書や調査書の発行には、１週間～10日程度を要します。また、郵送の場合はさらに４日程度を要しますので、十分な余裕をもって申し込んでください。
②緊急に証明書が必要な場合で直接窓口に来られるときは、事前に電話をいただけますと、お待たせせず証明書を発行できます。
※英文証明書・調査書・高等学校卒業程度認定試験に関する証明書は、即日発行できませんのでご了承ください。
③発行は無料です。郵送の場合は、郵送実費（切手）のみ必要です。
④証明書の氏名は、本校卒業時氏名での発行となります。

各種証明書は、皆様ご自身に関する一身上の極めて重要な意味をもった公文書ですから、発行には慎重な事務手続きを期すとともに、皆様の要望に、円滑に対応できるよう努力いたします。申し込みの際には、上記のことをご協力いただきますよう、よろしくお願いいたします。

■申請先■

〒774－0017　阿南市見能林町青木265
阿南工業高等専門学校　学生課教務係
電　話（0884）23 － 7133
ＦＡＸ（0884）22 － 4232

この“よろず伝言板”は「悠久」の誌上を通じて会員相互の心の絆を深めるために設けたものです。
何でも結構！！ふるって御投稿下さい。

悠久第54号原稿募集（阿南高専悠久編集部）

阿南高専同窓会誌「悠久」も本号で第53号となります。最近は会員だよりの原稿を集めるのに苦労しています。来年の54号を充実したものにするため、皆様の楽しい便り、写真、マンガ、イラスト、俳句など、何でもかまいません、どしどし原稿をお送り下さい。量はＡ４版１枚に収まる範囲程度です（もちろん少ない原稿も歓迎します）。郵送もしくは左記のメールアドレスに添付ファイルにてお送りください。

編集委員一同首を長くして待っています。

編集委員
1回機械　上田　登志男（徳島市）
1回機械　福富　正和（阿南市）
1回機械　林　岩男（藍住町）
2回機械　林　政憲（徳島市）
2回電気　中津　清（徳島市）
2回電気　岡本　満雄（徳島市）
3回機械　寒川　和哲（小松島市）
3回機械　藤井　美廣（徳島市）
3回電気　荒木　敏雄（小松島市）
4回機械　中山　茂樹（徳島市）
4回電気　平尾　強一（阿南市）
5回電気　正部　敏雄（小松島市）
5回電気　森　忠敬（徳島市）
6回土木　上原　豊志（鳴門市）
8回機械　森岡　和博（船橋市）
13回機械　齋　友文（徳島市）
13回電気　田中　達治（徳島市）
17回機械　伊丹　伸（阿南市）

原稿送り先
〒774－0017
阿南市見能林町青木265
阿南高専内悠久同窓会事務局
メール送付先
dosokai@anan-nct.ac.jp
原稿締切　2021年11月13日必着

阿 南 高 専 卒 業 生 数

（　）内は女子数で内数　令和２年 12 月 31 日現在

卒業年度	卒業期	機械工学科 機械コース	電気工学科 電気電子工学科 電気コース	制御情報工学科 情報コース	土木工学科 建設システム工学科 建設コース	化学コース	合計
昭和 42	1	80	38 (1)				118 (1)
43	2	79	37 (2)				116 (2)
44	3	70	31				101
45	4	67	37 (1)				104 (1)
46	5	55	36		33		124
47	6	82	39 (1)		34 (1)		155 (2)
48	7	67	36 (1)		38		141 (1)
49	8	61	34 (1)		30		125 (1)
50	9	69	32 (1)		35		136 (1)
51	10	61	36		37		134
52	11	82	40		37		159
53	12	70	31		32		133
54	13	71	40		30		141
55	14	66	38		31		135
56	15	64 (1)	38		33 (1)		135 (2)
57	16	61	35		31 (4)		127 (4)
58	17	65	37		26		128
59	18	76	34 (1)		34		144 (1)
60	19	54 (1)	37		32		123 (1)
61	20	75	36		28		139
62	21	59	40		32		131
63	22	71	40		40		151
平成元	23	72	41 (1)		43 (1)		156 (2)
2	24	75	42		32		149
3	25	78	44 (1)		38 (1)		160 (2)
4	26	74	43 (1)		31		148 (1)
5	27	42 (1)	31 (1)	32 (8)	34 (2)		139 (12)
6	28	46	48 (1)	40 (12)	28 (2)		162 (15)
7	29	29 (1)	43 (2)	41 (10)	36 (3)		149 (16)
8	30	43 (1)	37 (2)	39 (12)	45 (3)		164 (18)
9	31	37 (1)	41 (4)	38 (16)	35 (7)		151 (28)
10	32	38	41 (1)	40 (12)	42 (6)		161 (19)
11	33	33	36 (6)	33 (11)	36 (6)		138 (23)
12	34	45 (3)	37 (5)	39 (12)	39 (12)		160 (32)
13	35	34	40 (1)	37 (14)	38 (10)		149 (25)
14	36	31 (3)	38 (7)	28 (9)	32 (5)		129 (24)
15	37	39 (1)	36 (5)	31 (11)	38 (13)		144 (30)
16	38	41 (2)	43 (6)	40 (16)	39 (11)		163 (35)
17	39	38 (1)	36 (4)	40 (17)	34 (14)		148 (36)
18	40	37 (1)	43 (4)	31 (8)	28 (8)		139 (21)
19	41	36	42 (2)	29 (10)	32 (9)		139 (21)
20	42	35	45 (5)	38 (7)	37 (6)		155 (18)
21	43	35	39 (4)	38 (15)	40 (7)		152 (26)
22	44	36	38	34 (11)	27 (7)		135 (18)
23	45	42 (1)	37 (2)	34 (17)	33 (11)		146 (31)
24	46	41	44 (8)	47 (10)	34 (9)		166 (27)
25	47	47 (4)	44 (2)	41 (10)	20 (3)		152 (19)
26	48	40	39 (5)	36 (9)	29 (4)		144 (18)
27	49	45 (4)	36 (9)	42 (3)	22 (7)		145 (23)
28	50	41 (6)	40 (6)	37 (4)	30 (9)		148 (25)
29	51	42 (7)	37 (6)	41 (9)	31 (7)		151 (29)
30	52	40 (2)	24 (1)	37 (8)	23 (9)	25 (11)	149 (31)
令和元	53	40 (7)	33 (7)	33 (5)	23 (6)	24 (5)	153 (30)
合計		2,857 (48)	2,020 (118)	996 (286)	1,622 (204)	49 (16)	7,544 (672)

令和２年度卒業予定者（54回）

（　　）内は女子数で内数

卒業年度	回数	創造技術工学科 機械コース	創造技術工学科 電気コース	創造技術工学科 情報コース	創造技術工学科 建設コース	創造技術工学科 化学コース	合計
令和２年度卒業予定者	54	32 (3)	35 (7)	38 (8)	20 (7)	24 (5)	149 (30)

(注) ① 平成元年度から機械工学科（2 学級）を機械工学科（1 学級）と制御情報工学科（1 学級）に改組。② 平成 5 年度から土木工学科を建設システム工学科に改組。
③ 平成 14 年度から電気工学科を電気電子工学科に改組。④ 平成 26 年度から 4 学科を創造技術工学科 1 学科に統合。機械、電気、情報、建設、化学の 5 コース制に再編。

総会のお知らせ

2021年８月12日、下記のとおり総会を開催します。ふるってご参加ください。

※但し、新型コロナウイルス感染拡大状況により中止になる可能性があります。開催の有無については決定次第、阿南高専ホームページ上でお知らせいたしますので、事前にご確認ください。

講演会

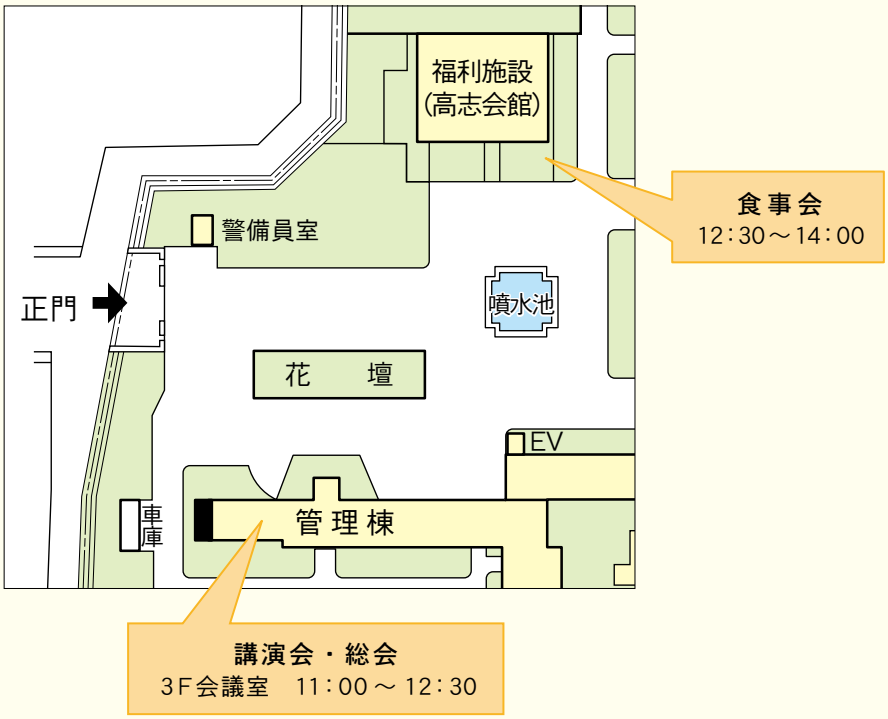
10：30　受　付
11：00～12：00　講演会
講 師：JR徳島駅ビル開発株式会社
代表取締役社長　大島　雅緒 氏（10M）
場 所：阿南工業高等専門学校　管理棟3F会議室

総　会

12：00～12：30　総　会
12：30～14：00　名誉教授の先生方との合同食事会
場 所：阿南工業高等専門学校　高志会館

会場案内

駐車は噴水の周りの空いているスペースをご利用ください。



寄付金募集のお知らせ（阿南高専悠久同窓会）

悠久同窓会会則第13条（本会の経費は会費、寄付金、その他の収入をもってあてる）の規程により寄付金を募集しております。諸経費高騰で悠久同窓会の財政も苦しい折、広く御協力をお願い申し上げます。

送　り　先　阿南市見能林町青木265
阿南高専内悠久同窓会事務局

振込の場合　郵便局振込
コンビニ振込
銀行振込　徳島大正銀行　阿南支店 普通
口座番号　８５９４４４２
阿南工業高等専門学校悠久同窓会